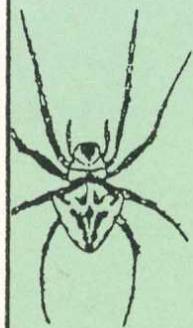
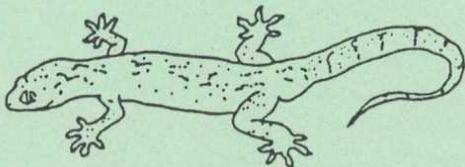
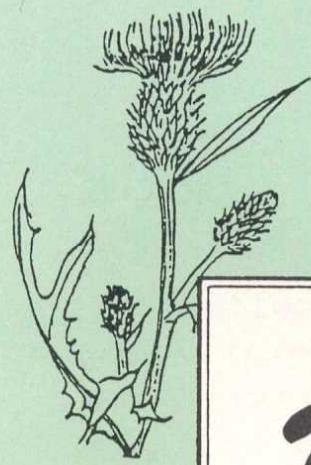
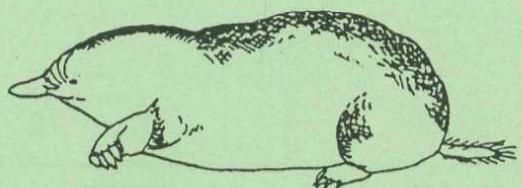
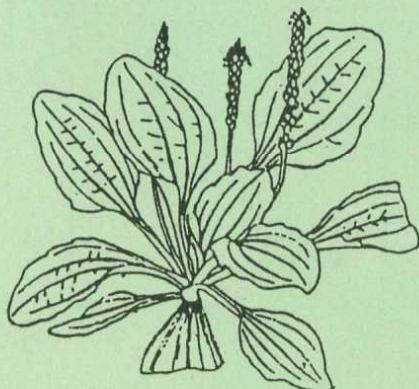
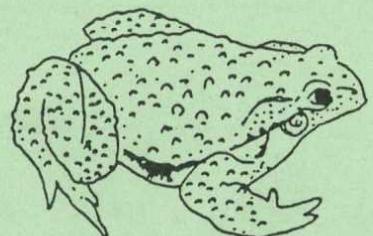
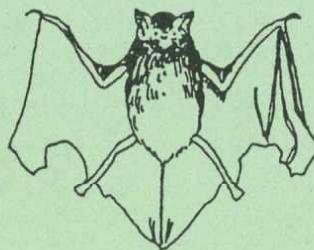
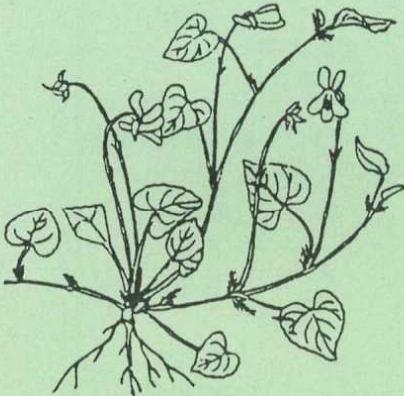


すぎなみの生き物たち 4

—すぎなみの生き物アンケート調査結果のまとめ—

杉並区環境清掃部環境課



はじめに

杉並区では、これまでに区内の自然環境を知る手がかりとして、専門調査員による杉並区自然環境調査と区民のみなさんの協力によるすぎなみの生き物アンケート調査を行ってきました。第1回調査は昭和60・61（1985・1986）年度に実施し、その後5年ごとに行っています。今回の第5回調査※は平成17・18（2005・2006）年度に行いました。本来は5年ごと2年間の調査期間ですが、より正確な生物相の実態を把握するために分類群によっては前回の調査終了時点からの情報についても採用しています。

調査を開始して20年が経過し、みなさんはこの間の生き物たちのようすをどのように感じていらっしゃるでしょうか。この冊子は、上記の2つの調査結果をもとに、現在の「すぎなみの生き物たち」をまとめたものです。今までに発行された平成4年度版、平成9年度版は、主にすぎなみの生き物アンケート調査の結果をもとにまとめたものでしたが、平成14年度版と今回は、詳細な現地調査をもとにまとめられた「杉並区自然環境調査報告書」からの抜粋と合わせて、区内の生き物たちの様子をお知らせしています。

※杉並区自然環境調査では「第○次」、すぎなみの生き物アンケート調査では「第○回」としている。

杉並区自然環境調査の内容

内容	第1次		第2次		第3次		第4次		第5次				備考	
	昭和		平成		平成		平成		平成		17年度 (2005)	18年度 (2006)		
	60年度 (1985)	61年度 (1986)	2年度 (1990)	3年度 (1991)	7年度 (1995)	8年度 (1996)	12年度 (2000)	13年度 (2001)	○	○				
植物	高等植物	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	蘚苔類	○	○	○	○	○								
動物	クモ類	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	昆虫類	○	○	○	○	○	○	○	○	○			H14年1～H17年3月、 H19年4～9月も採用	
	鳥類	○	○		○	○	○	○	○	○	H17年4～6月 は未調査			
	両生類 は虫類 ほ乳類		○	○	○	○	○	○	○	○			H13年4月～19年3月 までの情報も採用	

※：杉並の生き物アンケート調査のみ実施

すぎなみの生き物アンケート調査の内容

内容	第1次		第2次		第3次		第4次		第5次		
	昭和		平成		平成		平成		平成		
	60年度 (1985)	61年度 (1986)	2年度 (1990)	3年度 (1991)	7年度 (1995)	8年度 (1996)	12年度 (2000)	13年度 (2001)	17年度 (2005)	18年度 (2006)	19年度 (2007)
植物	春の野草	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	夏の野草	○		○	○	○	○	○	○	○	
	秋の野草	○		○	○	○	○	○	○	○	
動物	セグモ・ゾロウグモ	○		○	○	○	○	○	○	○	
	セミのぬけがらしらべ	○		○	○	○	○	○	○	○	
	春の昆虫										○
	夏の昆虫				○	○	○	○	○	○	
	秋の昆虫				○	○	○	○	○	○	
	餌台に来る鳥	○		○	○	○	○	○	○	○	
	鳥の食性調査	○			○	○	○	○	○	○	
	鳥の集団ねぐら	○		○	○	○	○	○	○	○	
	冬の野鳥	○		○	○	○	○	○	○	○	
	冬の水鳥				○	○	○	○	○	○	
小動物	ツバメの巣調べ	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	両生類		○	○	○	○	○	○	○	○	
	は虫類		○	○	○	○	○	○	○	○	
	ほ乳類		○	○	○	○	○	○	○	○	

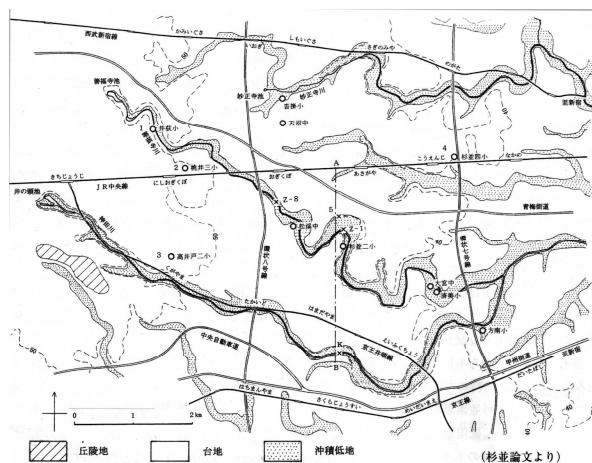
1 生き物たちがすむ環境

(1) 地形、地質、河川の状況

杉並区全体は、武蔵野台地に位置する概ね平坦な地形であり、台地に源流を持つ小河川が台地を侵食し河川沿いに低地や斜面をつくっています。標高は約50~30mの範囲で、標高差は20m程度です。台地部は関東ローム層、低地部は沖積層で、これらの下層は礫層となり地下水の帶水層となっています。

河川は北から、妙正寺川[上流部：井草川（暗渠）]、桃園川（暗渠）、善福寺川、神田川の4つの河川と玉川上水（下流部暗渠）があります。妙正寺川の上流部には妙正寺池が、また善福寺川の源流と中流部にそれぞれ善福寺池と和田堀池があり、最上流部では仙川上水の水が放流されています。河川の水質は、近年では下水道整備で改善され、徐々にきれいになってきています。

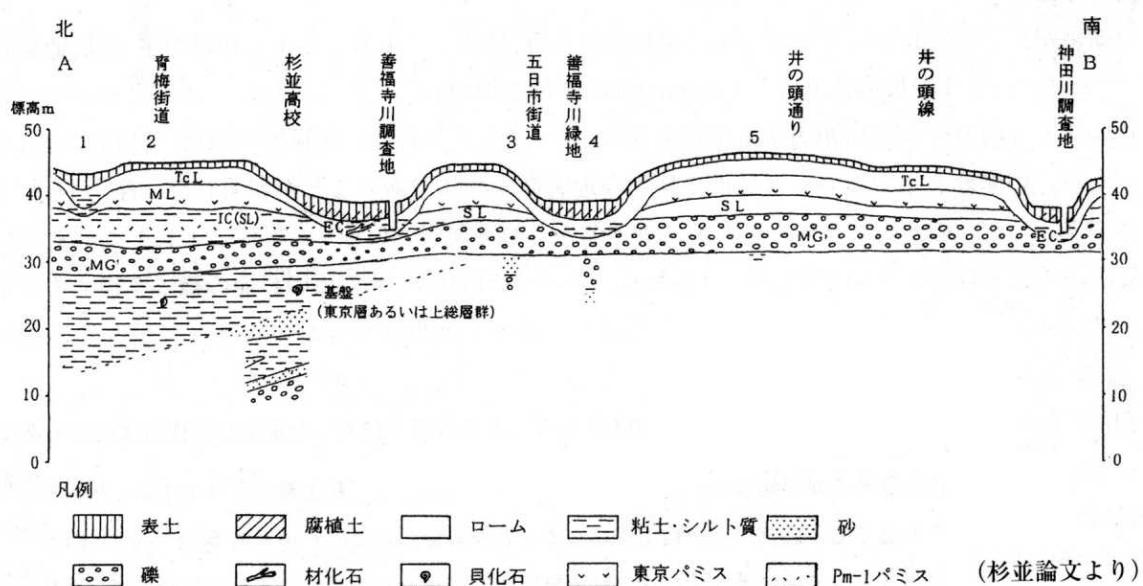
杉並区の地形



杉並区の河川



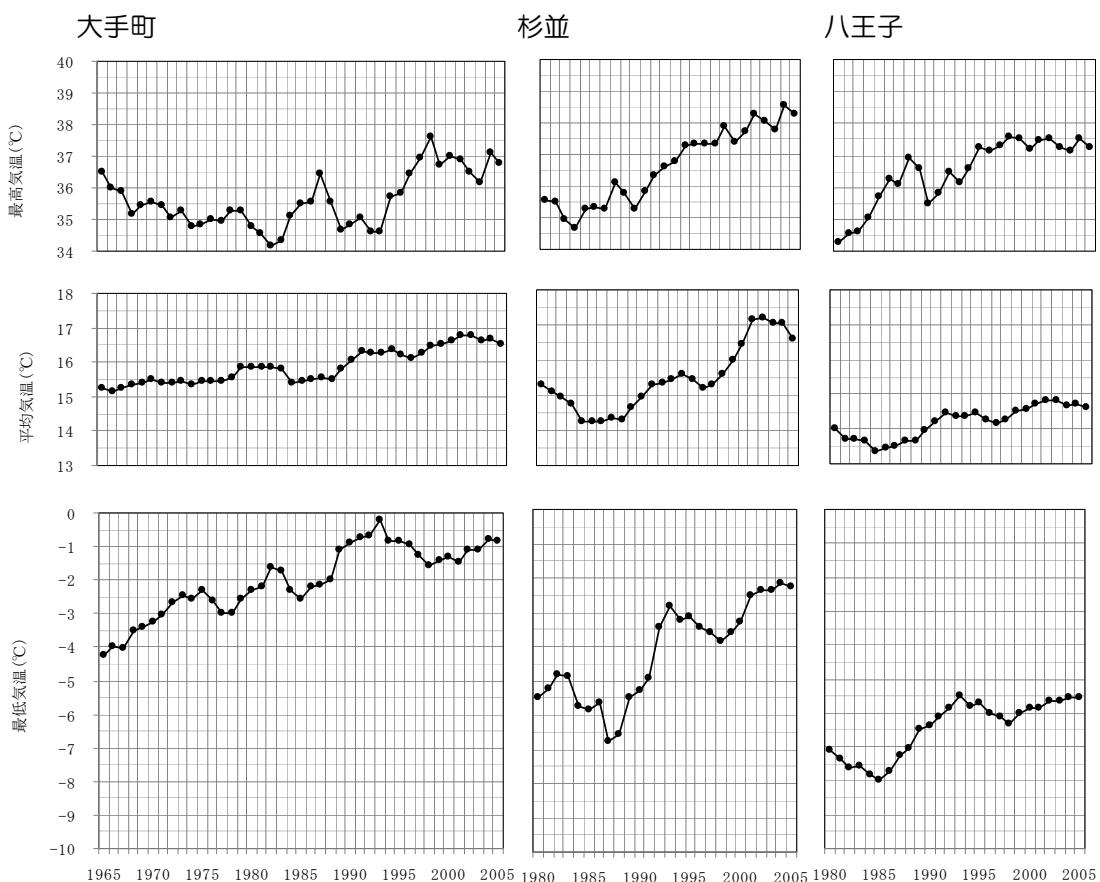
杉並区の地質断面図



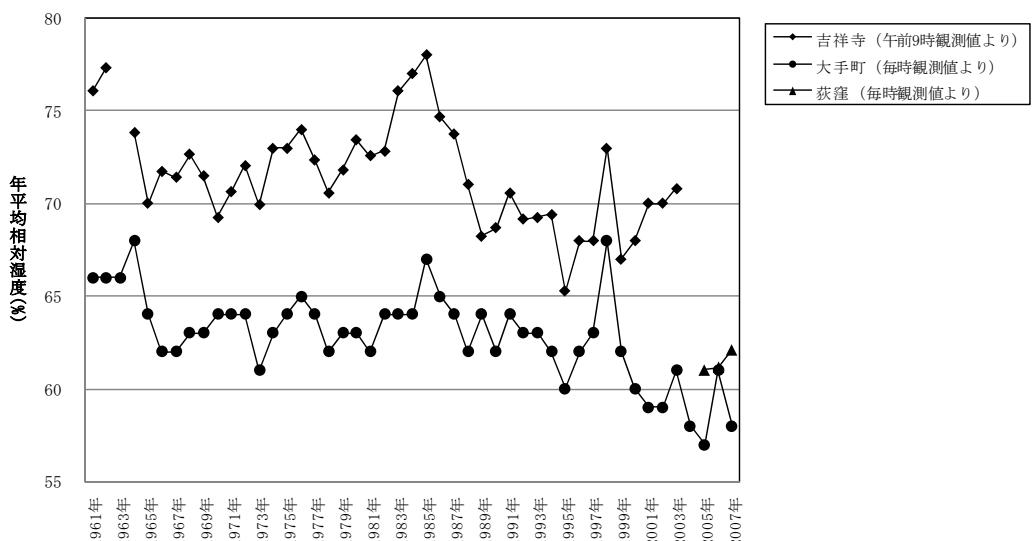
(2) 気候、大気の状況

杉並区の気候は、大手町と八王子の気候と比較すると、その中間的な気候となっています。大手町は温暖で内陸より晴天が少ない海洋性気候、八王子は気温の日較差や年較差が大きく冬期は乾燥した晴天が続く内陸性気候です。杉並区では最近ヒートアイランド現象などによる気温の上昇がみられ、相対湿度が低下し乾燥化しつつあることがうかがえます。

年平均気温、最高気温、最低気温の推移



年平均相対湿度の推移



(3) みどりの状況

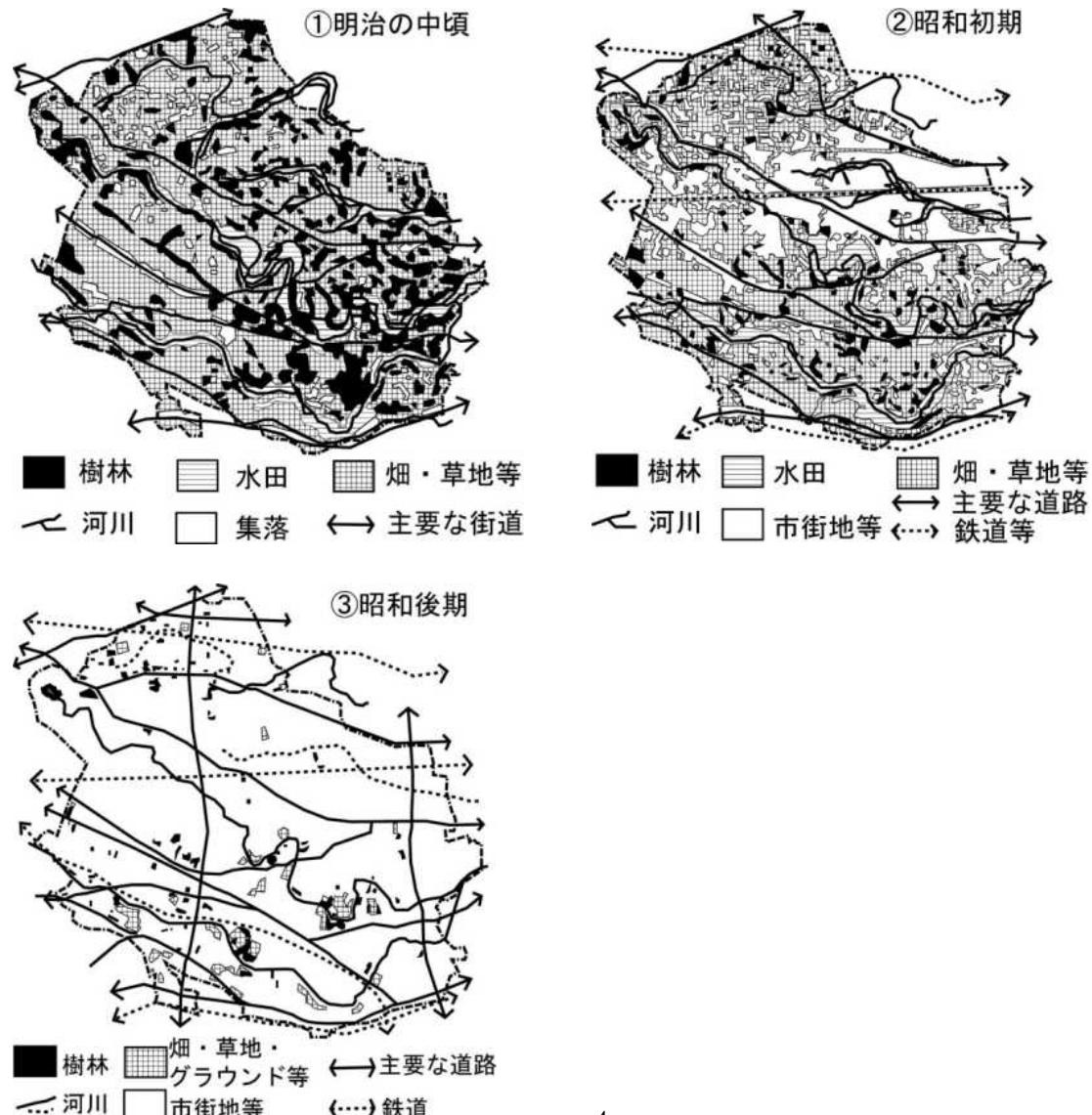
杉並区では、明治時代頃は農地とコナラやアカマツの雑木林が広がっていましたが、その後市街化が徐々に進み、現在は市街地がほとんどを占めています。樹林地と草地を合わせた緑被率も、40年ほど前から急激に減少しました。

現存している樹林地や緑地は、大きくても 10ha 前後で、善福寺川や神田川沿いにややまとまっているものの、それぞれ散在し孤立した状態になっています。周辺の武蔵野市や三鷹市には、玉川上水と連続して上流部に位置する井の頭公園、北側の練馬区には石神井公園などまとまりのある緑地がありますが、いずれも孤立しています。小規模な社寺林や屋敷林、公園やグランドなどの植栽地やみどりの比較的多い住宅団地なども区内に点在しています。

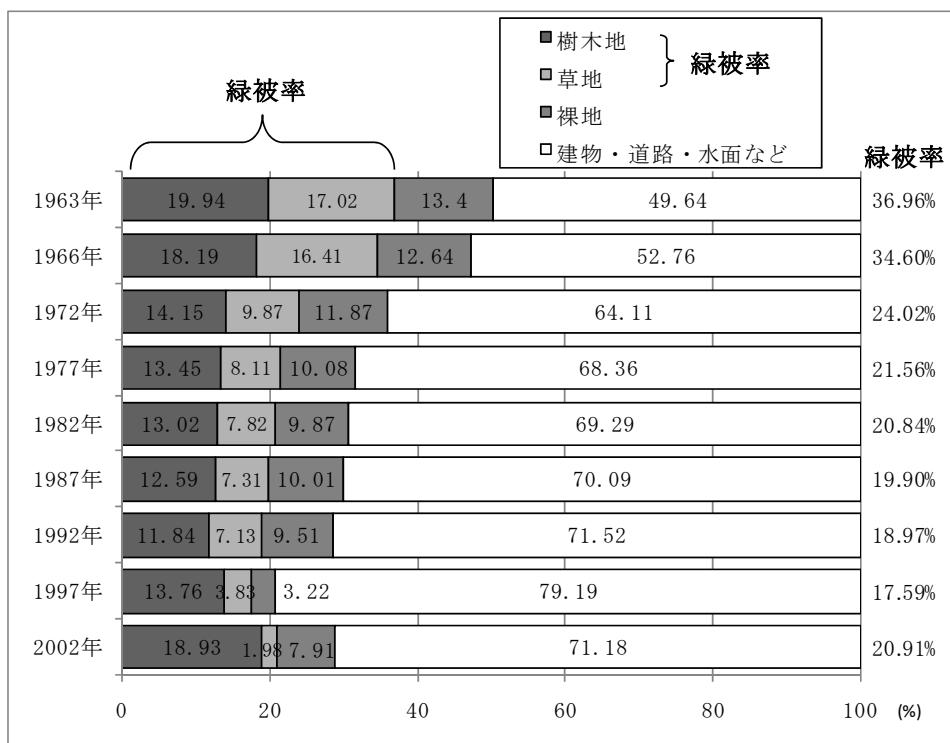
このように、善福寺川上流側の善福寺公園周辺や下流側の和田堀公園周辺などの樹林地や水辺のある比較的まとまりのある緑地、その他川沿いの斜面樹林を中心とした緑地、台地部に小規模で点在している樹林地や植栽地や農地など、少ないながらも多様なみどりが杉並区には見られます。また水田は、かつて区内の主要河川沿いに多く見られましたが、昭和 50 年には耕地面積 5a* 以上の農家の農地は全て畠地となり水田はほとんど見られなくなりました。

* : 1a は 100 m²

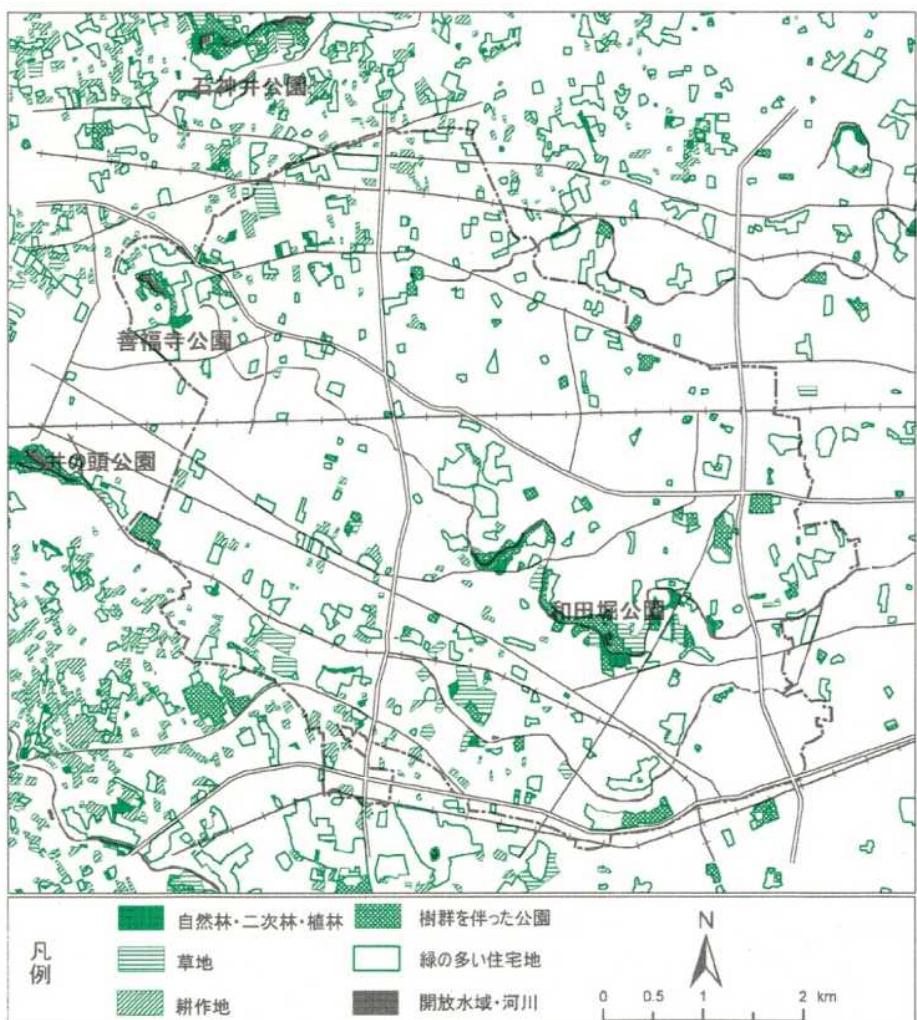
杉並区のみどりの変遷



緑被率の経年変化



杉並区の植生



東京都現存植生図（東京都、1998）をもとに作成

2 植物

杉並区の野生植物は、今回の自然環境調査では 114 科 584 種類が確認され、前回の調査に比べて種類数がやや増加しています。またこれまでの 1~5 次の調査結果を合わせると合計 122 科 829 種類が確認されています。野生植物以外の植栽種は、今回の調査で 92 科 303 種類、これまでの調査結果を合わせると 121 科 537 種類が確認されています。野生植物と植栽植物を合わせると、1~5 次の調査結果の総合で 165 科 1366 種類になります。

これらの種類のうち、環境省や東京都のレッドデータブック[※]に掲載されている植物、杉並区内では分布が限られ数が少ない種類や近年減少し分布が少なくなっている種類及び環境指標となる種類を注目種といいますが、今回の調査では、植栽種を除いたもので 125 種類が確認されました。

※絶滅のおそれのある野生生物の種の生息状況等をとりまとめた書籍

高等植物の出現種類数^{※1}

区分		第1次		第2次		第3次		第4次		第5次		計	
		科数	種類数										
野生 ^{※2}	シダ植物	12	25	12	26	15	31	10	24	12	33	15	45
	裸子植物	3	4	3	4	3	4	3	4	3	4	3	4
	被子植物	55	256	57	294	55	286	55	263	55	256	60	363
	双子葉植物	24	146	25	164	24	154	24	146	26	149	26	205
合計		16	146	17	158	17	151	15	133	18	142	18	212
計		110	577	114	646	114	626	107	570	114	584	122	829
植栽 ^{※3}		81	199	101	335	103	365	94	299	92	303	121	537
合計		135	776	146	981	149	991	142	869	147	887	165	1366

※1 変種、品種を含む。ただし不明種（○○属sp.など）は除いた。

※2 在来種の他、帰化種、野生状態にある逸出種を含む。

※3 公共の場に植栽された造園樹木および在来種の草本植物を含むが、個人邸の低木、および園芸品種等の栽培品の草本植物は含まない。

注目種

科	種類名	貴重性		指標性 ^{※4}	調査年次					備考
		国 ^{※1}	都 ^{※2}		1次	2次	3次	4次	5次	
バヤズ科	オオハナワラビ			2	●	●	●	●	●	
	ナツノハナワラビ	C					●			
	コハナヤスリ	C	1		●	●	●	●	●	
	ヒロハハナヤスリ	C								
フサギ科	カニクサ			2	●	●	●	●	●	
ミズワラビ科	タチシノブ			1	●	●	●	●	●	
イモトリウ科	オオボノイノモトソウ			2	●	●	●	●	●	
イヌクサ科	クマワラビ			2			●	●		
	アスカイノデ	C								
	アイアスカイノデ	C								
ウラボシ科	マメヅタ	C			●	●	●			
	ヒメノキシノブ	C								
	ノキシノブ			a	●	●	●	●	●	
スギ科	スギ			a	●	●	●	●	●	植栽種
ヤギ科	ジャヤナギ	C								
	ネコヤナギ	C								
カバノキ科	ハシノキ	C			●	●	●	●	●	
	ツノハシバミ	C								
アナ科	ウラジロガシ	C								
イケツバ科	カテンソウ	C			●	●	●	●	●	
	ミズ	C			●	●	●	●	●	
タデ科	サクラタデ	B								
	ヤナギヌカボ	VU	UK							
	ミゾソバ			a	●	●	●	●		
ヤマゴボウ科	ヤマゴボウ			2	●	●	●	●		
ナデシコ科	ナンバンハコベ	C			●	●	●			
	フシグロセンノウ	C				●				
モクレン科	シデコブシ	NT							●	植栽種
クスノキ科	ニッケイ	NT				●	●	●	●	植栽種
	クロモジ			2	●	●	●	●	●	
キンボウケ科	ニリンソウ			2	●	●	●	●	●	
	ミスミソウ	NT				●	●	●	●	植栽種
	イチリソウ			2	●	●	●	●	●	
	アズマイチゲ	A				●				植栽種
	ヒメウズ			2	●	●	●	●	●	
	イスショウマ			2	●	●	●	●	●	
	サラシナショウマ	C	2		●	●	●	●		
	カザグルマ	NT							●	
ズモ科	イカリソウ			A	2	●	●	●	●	
アケビ科	ミツバアケビ				a	●	●	●	●	
スイレン科	コウホネ	A								植栽種
ドクグミ科	ハングショウ	A				●	●	●	●	植栽種
センリョウ科	ヒトリシズカ			2	●	●	●	●	●	
	フタリシズカ			2	a	●	●	●	●	
ウマノスズクサ科	タマノカンアオイ	VU	A			●				植栽種
ボクタケ科	ヤマシタクヤク	NT					●			植栽種
オキナリソウ科	トモエソウ	C					●			植栽種
ケン科	キケマン	UK				●				
	ヤマブキソウ	A	1			●	●	●	●	
マンサク科	トサミズキ	NT				●	●	●	●	植栽種
ユキナシ科	チダケサシ			2	●	●	●	●	●	植栽種
	キレンゲショウマ	VU				●				
	タコノアシ	NT	A	2	●	●	●			
バラ科	ズミ	C					●	●	●	植栽種
	シロヤマブキ	EN				●	●	●	●	植栽種
	ニガイチゴ			a	●	●	●	●	●	
	モミジイチゴ			a	●	●	●	●	●	
	エビガライチゴ	C				●	●	●	●	
	ワレモコウ			a	●	●	●	●	●	
マメ科	ヌスピトハギ			a	●	●	●	●	●	
	ノアズキ	B	2		●	●	●	●	●	
	キハギ	C				●	●	●	●	
	クズ			a	●	●	●	●	●	
カガバニ科	ミヤマカタバミ	UK				●	●			植栽種
トウダイイグサ科	ナツトウダイ			1	●	●	●	●	●	
	ヒトツバハギ			2	●	●	●	●	●	
カエデ科	ハナノキ	VU				●	●	●	●	植栽種
ツツジ科	ツリフネソウ	C							●	
ニキキ科	ツリバナ			2	●	●	●			
ジンショウケ科	オニシバリ			2	●	●				
スミレ科	アリアケスミレ	C				●	●	●	●	
	ヒカゲスミレ	C				●	●	●	●	
カリ科	ゴキヅル	B					●	●	●	
アカバナ科	ミズタマソウ			1	●	●	●	●	●	
カギ科	ハリギリ			1	●	●	●	●	●	
セリ科	ムラサキミツバ			1	●	●	●	●	●	
	セリ				a	●	●	●	●	
ツツジ科	ヤチツツジ	EN					●			植栽種
ヤブコジ科	ヤブコウジ				a	●	●	●	●	
サクラソウ科	サクラソウ	NT	D				●			植栽種
モセイ科	ヒトツバタゴ	VU					●			植栽種
マツシ科	アイナエ	A					●			植栽種
ミツガシワ科	アサザ	NT	A					●	●	植栽種
キョウチクトケ科	ショウジソウ	NT	D			●	●	●	●	植栽種
ガガバ科	コイケマ	B							●	
アカネ科	ハクチョウゲ	EN				●	●	●	●	植栽種
ムラサキ科	ムラサキ	EN	D			●	●	●	●	植栽種
クマツツラ科	カリガネソウ		A				●			植栽種

※1 環境省レッドデータ

C R : 絶滅危惧 I A類 (絶滅の危機に瀕している種)

E N : 絶滅危惧 I B類 (絶滅の危機に瀕している種)

V U : 絶滅危惧 II 類 (絶滅の危機が増大している種)

N T : 準絶滅危惧 (現時点では絶滅危険度は小さいが、

生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種)

※2 東京都レッドデータ (区部におけるランク)

A : 絶滅の危機に瀕している種類

B : 絶滅の危機が増大している種類

C : 生息環境の変化によりAランクやBランクへの移行が危惧される種類

D : 野生で絶滅と判断される種類

U K : 評価に足りる情報が得られなかった種類

(植物について、生育環境は存在していると考えられるが、生育の現状が不明な種を含む)

※3 杉並区独自の注目種

(国や都のレッドデータ種以外) の選定基準

1 : 元来、区内での分布が限られ数が少ない種。(貴重種、希少種)

2 : 元来、区内の広い範囲に分布していたが、近年減少している種

※4 指標する項目 (指標する環境については後で詳解)

a : 自然環境の質

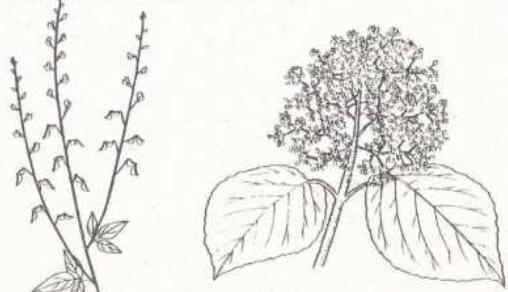
(環境変化を指標とする種類は外來種等であるため、表には掲載しなかった)

科	種類名	貴重性			指標性 ^{※4}	調査年次					備考
		国 ^{※1}	都 ^{※2}	区 ^{※3}		1次	2次	3次	4次	5次	
シ科	オドリコソウ			1		●	●	●	●		
	ラショウモンカズラ	UK				●					植栽種
	ヒキオコシ	UK				●					
	アキノタムラソウ			2		●	●	●	●	●	
	キバナアキギリ	C				●	●	●			
ナス科	イガホオズキ	A				●	●	●	●	●	
コマツナグサ科	サワトウガラシ	UK						●			
	シソクサ	B						●			
	ルリトラノオ	VU						●			植栽種
	カワヂシャ	NT							●		
キツネノマコ科	ハグロソウ		B			●	●	●			
タキミ科	イヌタヌキモ	NT							●		
ハエドクワ科	ハエドクソウ			a		●	●	●	●	●	
スイバズラ科	ガマズミ			a		●	●	●	●	●	
オミナエシ科	オミナエシ		1			●	●	●			
ツルカノコソウ		C				●	●	●		●	
キキョウ科	ソバナ	C				●	●	●			植栽種
	ツリガネニンジン		2			●	●	●	●	●	
	ホタルブクロ		2			●	●	●	●	●	
	キキョウ	VU	A			●	●	●	●	●	植栽種
キク科	ノコギリソウ	UK				●	●	●			植栽種
	シオン	VU				●	●	●		●	植栽種
	モミジガサ		2			●	●	●			
	ガンクビソウ		2			●	●	●	●	●	
	ノアザミ		2			●	●	●	●	●	
	ノハラアザミ		2			●	●	●	●	●	
	ヒゴタイ	VU				●	●	●			植栽種
	フジバカマ	NT	A				●	●		●	植栽種
	アキノハハコグサ	VU	UK			●	●	●		●	
	オオニガナ	NT	A			●	●	●			
	オヤマボクチ			1		●	●	●	●		
	カントウタンボボ			a		●	●	●	●	●	
	オナモミ	VU	UK			●	●	●			
オモダカ科	ヘラオモダカ	B				●	●	●	●	●	
	サジオモダカ	D						●			
ヒルムシロ科	エビモ	C						●			
	ヤナギモ		2			●	●				
ユリ科	ヤマラッキョウ	UK				●					
	ホウチヤクソウ			a		●	●	●	●	●	
	カタクリ	A	1			●	●	●	●	●	
	ヤブランソウ			a		●	●	●	●	●	
	ノカソウ		a			●	●	●	●	●	
	コオニユリ	A				●	●	●			植栽種
	カノコユリ	VU				●	●	●			植栽種
	ナルコユリ		2			●	●	●	●	●	
	ワニグチソウ		2			●	●	●	●	●	
	サルトリイバラ			a		●	●	●	●	●	
	ヤマジノホトトギス	B									植栽種
	タイワンホトトギス	CR									植栽種
	ジョウロウホトトギス	VU						●	●		
	ヤマホトトギス		2			●	●	●	●	●	
	エンレイソウ		2			●	●	●			植栽種
	アマナ	C	2			●	●	●	●	●	
ヒガシバナ科	キツネノカミソリ		2			●	●	●			
ミズアオイ科	コナギ		2			●	●	●			
アヤメ科	ノハナショウブ	A					●	●			植栽種
	ヒメシャガ	NT						●	●		植栽種
	カキツバタ	NT	D			●	●	●	●	●	植栽種
	アヤメ	D				●	●	●	●	●	植栽種
イグサ科	イ			a		●	●	●	●	●	
	ホソイ	B				●					
体科	チガヤ			a		●	●	●	●	●	
	ササクサ	C				●	●	●	●	●	
	オギ		a			●	●	●	●	●	
	ススキ		a			●	●	●	●	●	
	ヨシ		a			●	●	●	●	●	
	アズマザサ	UK				●	●	●	●	●	
	マコモ		2			●	●	●	●	●	
サトイモ科	ショウブ	UK				●	●	●	●	●	植栽種
	ヒメカイウ	NT				●	●	●	●	●	植栽種
ミクリ科	ミクリ	NT	B			●	●	●	●	●	植栽種
	タマミクリ	NT	1					●			
	ナガエミクリ	NT	B						●		
ガマ科	ヒメガマ		2	a		●	●	●	●	●	
	ガマ			a		●	●	●	●	●	
	コガマ		a			●	●	●	●	●	
カヤツリグサ科	カヌスゲ	C				●	●	●	●	●	植栽種
	クサスゲ	A							●		
	マツカサススキ	B							●		
ラン科	シラン	NT				●	●	●	●	●	植栽種
	エビネ	NT	A	2		●	●	●	●	●	
	ギンラン			2	a	●	●	●	●	●	
	キンラン	VU		2		●	●	●	●	●	
	シュンラン			2	a	●	●	●	●	●	
	クマガイソウ	VU	D			●	●	●			植栽種
合計	173種類	42	81	53	29	101	127	128	99	101	
合計 (植栽種を除く)	125種類	12	55	52	28	85	93	92	75	83	

- ※1 環境省レッドデータ
- C R : 絶滅危惧 I A類 (絶滅の危機に瀕している種)
- E N : 絶滅危惧 I B類 (絶滅の危機に瀕している種)
- V U : 絶滅危惧 II類 (絶滅の危機が増大している種)
- N T : 準絶滅危惧 (現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種)
- ※2 東京都レッドデータ (区部におけるランク)
- A : 絶滅の危機に瀕している種類
- B : 絶滅の危機が増大している種類
- C : 生息環境の変化によりAランクやBランクへの移行が危惧される種類
- D : 野生で絶滅と判断される種類
- U K : 評価に足りる情報が得られなかつた種類
(植物について、生育環境は存在していると考えられるが、生育の現状が不明な種を含む)
- ※3 杉並区独自の注目種
- (国や都のレッドデータ種以外) の選定基準
- 1 : 元来、区内での分布が限られ数が少ない種。(貴重種、希少種)
- 2 : 元来、区内の広い範囲に分布していたが、近年減少している種
- ※4 指標する項目 (指標する環境については後で詳解)
- a : 自然環境の質
(環境変化を指標とする種類は外來種等であるため、表には掲載しなかつた)

■杉並区の主な環境に生育する植物

杉並区は市街地の中に樹林地や水辺が孤立して存在する典型的な都市環境にあり、常緑樹林や落葉樹林などに生育する樹林性の植物、林縁や草地に生育する植物、池や小河川などに生育する水辺の植物、都市に適応した植物などの多様な植物がみられます。ここでは区内の主な環境に生育している代表的な植物を紹介します。

<p>くうっそうとした樹林>常緑広葉樹の樹木が多く林の中も植物が密生しており、社寺林や屋敷林として残された林で、区内では場所が限られ規模も小さい</p>   <p>ヤブコウジ 暖温帯の照葉樹林の林床に生育する常緑の小低木で12月頃に赤い実をつける</p> <p>ノキシノ 樹木の幹などに着生するシダ植物で薄暗い湿った環境を好む</p>	<p><明るい雑木林>落葉広葉樹の林で林内が比較的すっきりとしていて明るく、薪炭林などに利用されていた林で、川沿いの斜面などに点々と残されている</p>  <p>ヌスピトハギ 明るい樹林の林床に生育し、実は人やけものに付きやすくそれによって運ばれる</p> <p>ガマズミ 主に落葉広葉樹林の林内に生育し落葉低木で秋に赤い実をつける</p>
<p><樹林の林縁>林内の暗い環境から林外の明るい環境に移り変わる場所で、低木やつる植物が密生したやぶになり、やぶの外には様々な草本植物が生育する</p>  <p>モミジイチゴ とげのある落葉低木で、初夏に黄色い実を付けるキイチゴの仲間</p> <p>クズ 繁殖力が旺盛なつる植物で、大きな三枚葉が特徴。秋の七草の一つ</p>	<p><草地>定期的な刈り取りが古くから続けられてきた場所は、多種類の草本植物が生える草原となり、河川沿いや線路沿いの一部にみられるが、区内では少なくなっている</p>  <p>ススキ 秋の七草の一つで、背丈が1~2mになる多年草</p> <p>ワレモコウ 秋に赤紫色の花を咲かす背丈が0.5~1m前後の多年草</p>
<p><水辺の草地>水がかぶる比較的浅い池の縁や河川の水辺にみられる湿性草原で、善福寺池や和田堀池などの池、善福寺川や神田川など、場所がごく限られている</p>  <p>ガマ類(ガマ、ヒメガマ、コガマ) ※イラストはガマやや深い水中にも生える円柱型の穂が特徴の大形多年草</p> <p>ミゾソバ 水辺の溝などに普通にみられ、秋にピンク色の花をつけるソバに似た多年草。杉並では減っている</p>	<p><都市の空き地の雑草地:市街地のちょっとした空き地や道ばたの外来種が多い草地>区内のあちこちでみられる</p>  <p>ハルジオン 春に白~ピンク色の花をつけ都市に広く帰化するキク科植物</p> <p>チチコグサモドキとウラジロチチコグサ ※イラストはチコグサモドキ近年特に都市に進出している帰化植物</p>

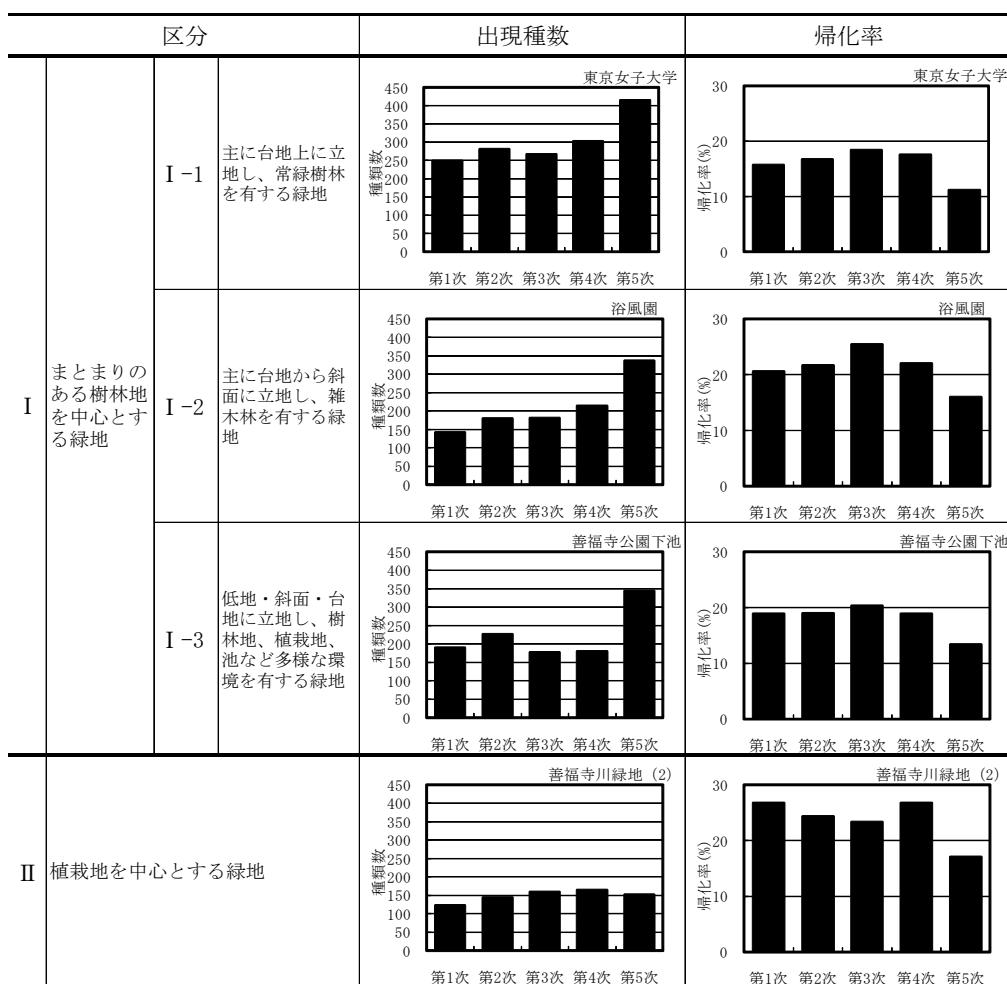
■杉並区の代表的な場所の植物の状況

今回調査を行った場所は、大きくは「I まとまりのある樹林地を中心とする緑地」、「II 植栽地を中心とする緑地」の2つのタイプに分けられました。また「I まとまりのある樹林地を中心とする緑地」はさらに、「I-1 主に台地上に立地し、常緑樹林を有する緑地」、「I-2 主に台地から斜面に立地し、雑木林を有する緑地」、「I-3 低地・斜面・台地に立地し、樹林地、植栽地、池など多様な環境を有する緑地」に分けられます。

それぞれのタイプに特徴的にみられる植物は、I-1 ではフモトシダやオオバギボウシ、ナルコユリ、ヤマホトトギスなどでした。また、I-2 および I-3 に特徴的にみられる植物はコマユミ、クロモジなどの落葉低木やアオツヅラフジ、ミツバアケビなどのつる植物、マルバスミレ、ヤブヘビイチゴなどの夏緑草本植物など落葉樹林内でみられる種類でした。これらの種類は常緑樹林内ではあまりみられないのが一般的ですが、今回の調査においても I-1 ではみられませんでした。I-3 に特徴的にみられる植物は、キショウブ、マコモ、アカメヤナギなどの湿性植物でした。II では I と共に、ケヤキ、エノキ、コブシなど雑木林に多くみられる植物がみられました。

それぞれのタイプの代表的な場所の出現種類数と帰化率*の変化を以下に示しました。

環境条件の異なる代表地における出現種類数と帰化率*の変化



*ある場所に生育する帰化植物の種類数が全植物の種類数（植栽植物は除く）に対して占める割合のこと。帰化植物とは、人間の媒介によって、本来の自生地から他の地域に移動し新しい土地で繁殖を続けている植物のことをいい、弥生時代頃のイネの栽培に伴って日本に入ってきたと考えられる植物（史前帰化植物）、その後農業に伴って入ってきたと考えられる植物（旧帰化植物）、江戸時代の末期から現代にかけて入ってきたと考えられる帰化植物（新帰化植物）などがある。一般に狭義の帰化植物とされているものは、江戸時代末期から現代にかけての導入経路のはっきりしている新帰化植物であり、ここでいう帰化植物も新帰化植物を指している。

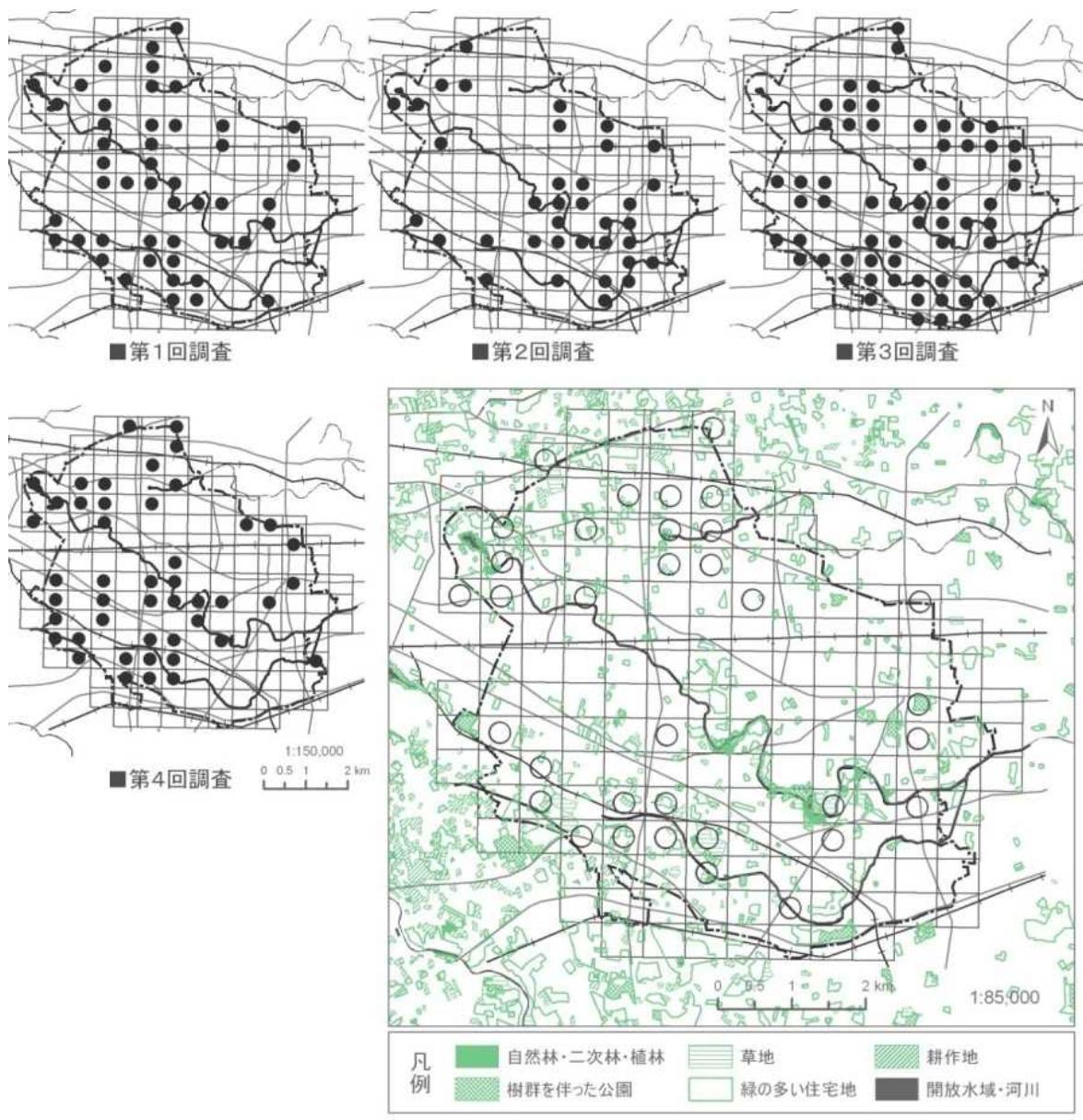
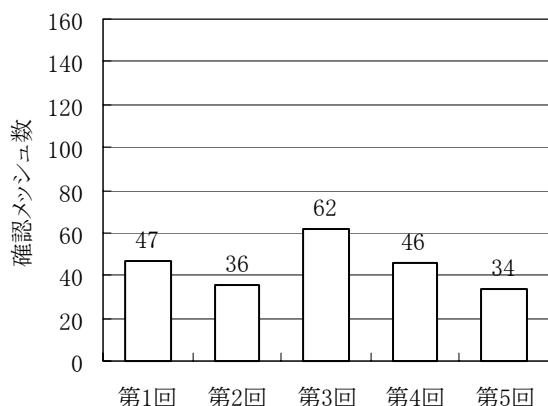
■主な植物の生育状況と環境

すぎなみの生き物アンケート調査の結果で、杉並区の環境の特徴をよく表している種類の区内での分布状況を紹介します。

ノアザミ・ノハラアザミ

この2種類のアザミは似ており、いずれも日当たりのよい草地などにみられます。ノアザミは春から夏に、ノハラアザミは夏から秋に紫色の花をつけ、ノアザミは花のものとのところ（総ほう）がねばることで区別がつきます。

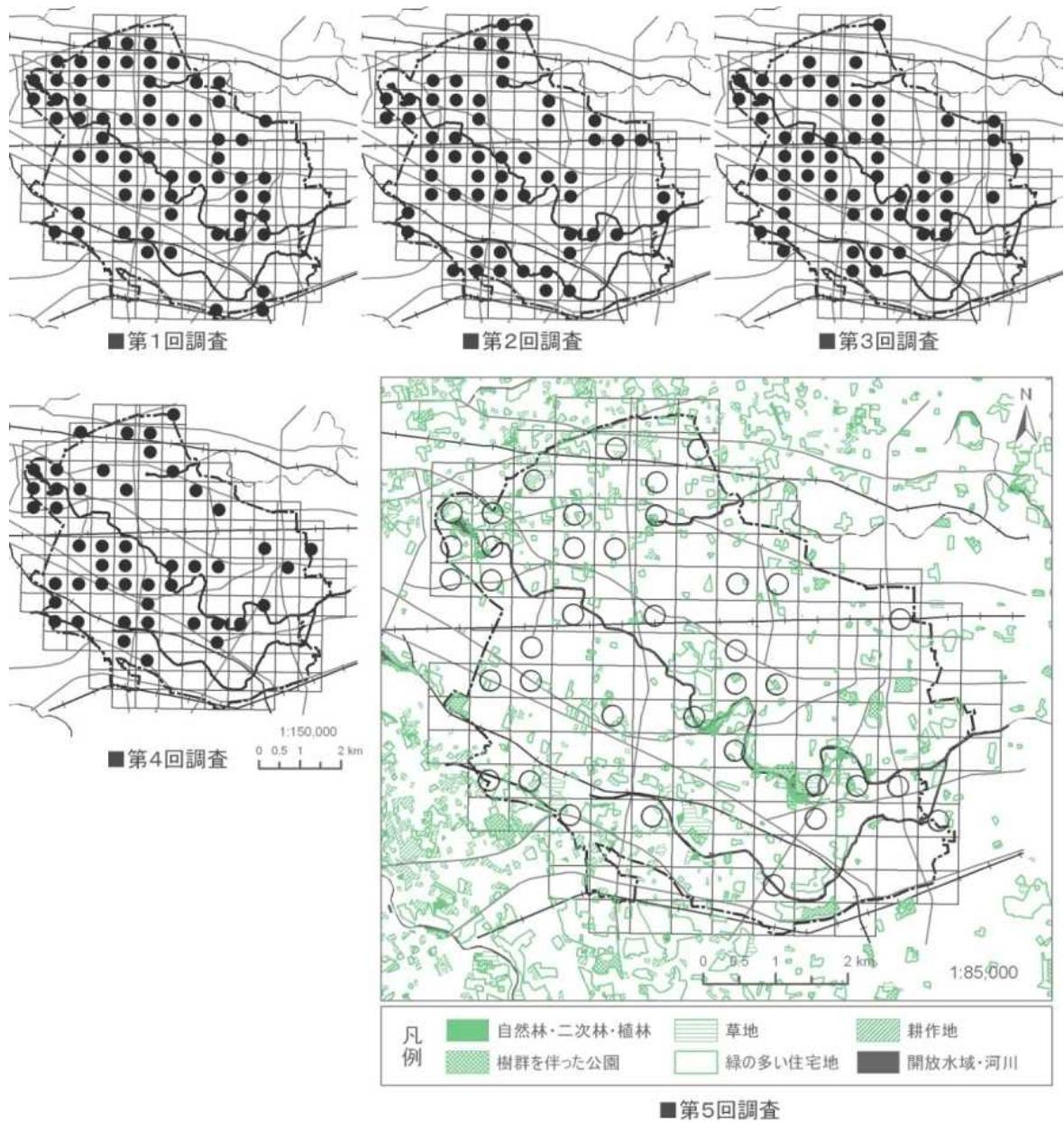
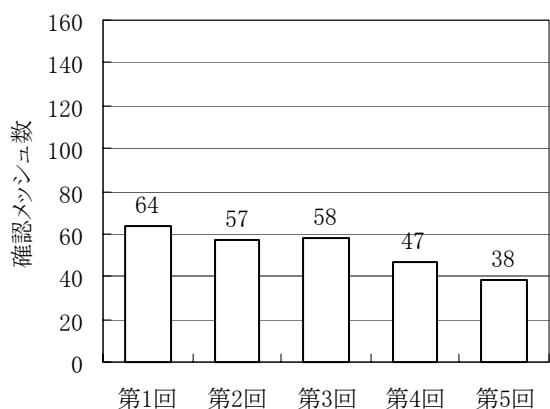
前回の調査に比べて確認されたメッシュ数は減少しました。今回確認された場所は、みどりの多いところと重なる傾向があります。



カントウタンポポ

日当たりのよい草地にみられる在来のタンポポです。土地がかくらんされると減少し、次に示す外来種であるセイヨウタンポポに置き換わってしまいます。市街化により減少傾向にある種類といえます。

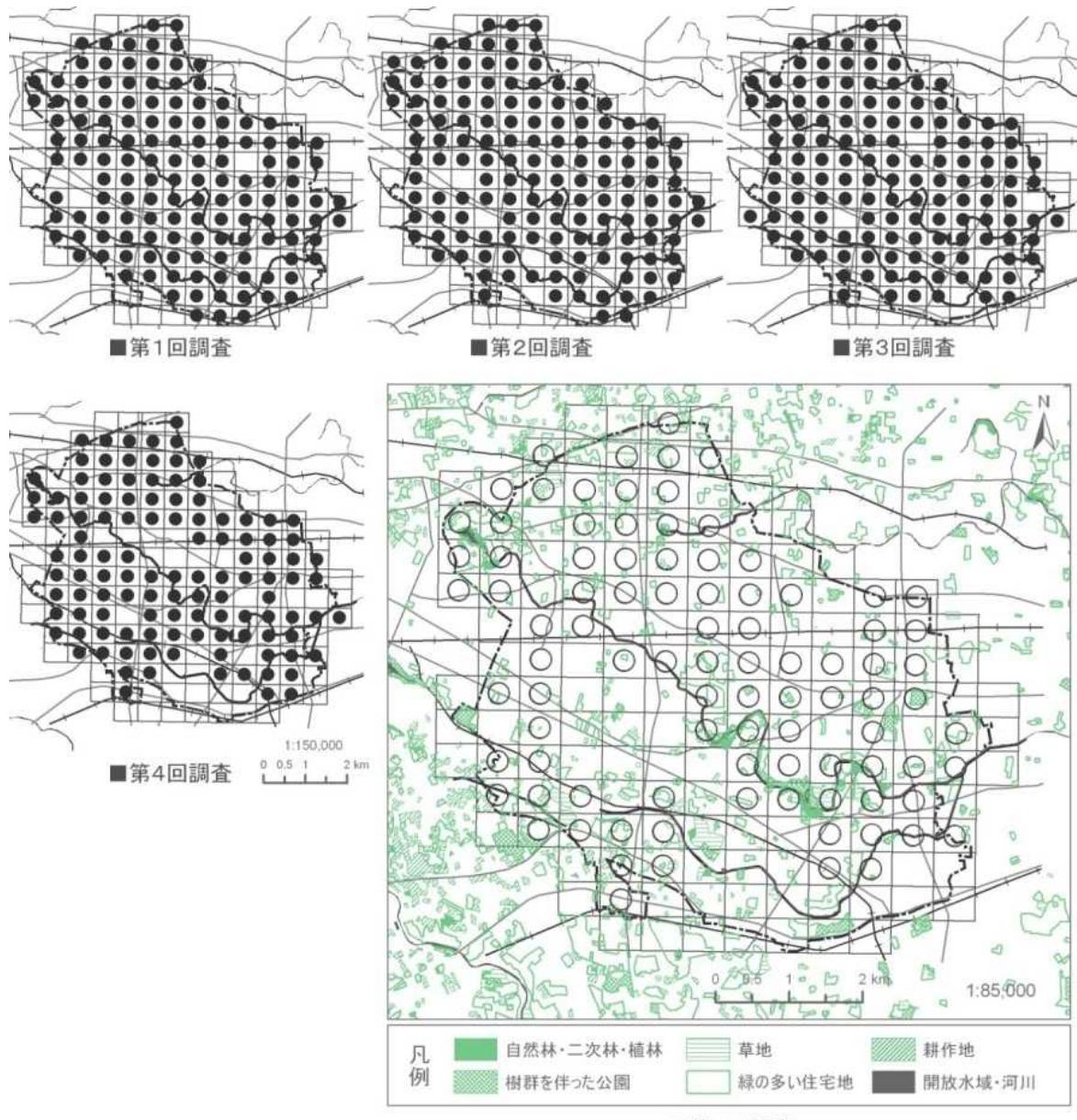
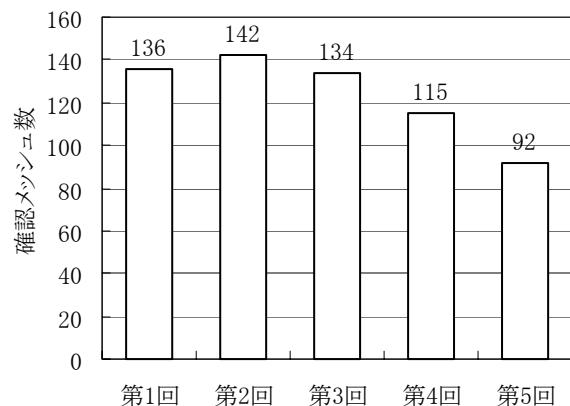
第1回調査から分布が減少する傾向にあります。今回確認された場所はみどりの多いところと重なる傾向があります。



セイヨウタンポポ

日当たりのよい道ばたや空き地など、土地がかくらんされた場所にいち早く侵入します。花も大きく目立つヨーロッパ原産の帰化植物です。

区内のほぼ全域に分布しています。第2回の調査以降、分布が減少していますが、今後も減少するのか注目されます。

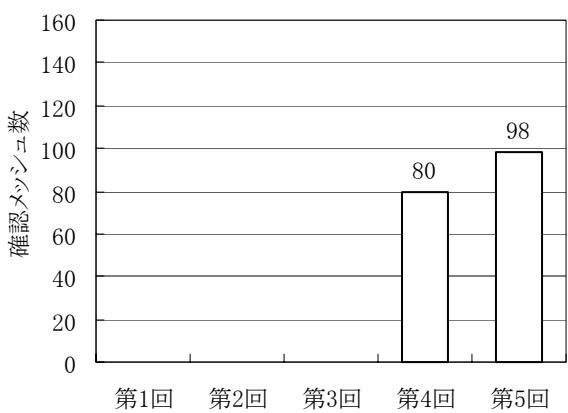


■第5回調査

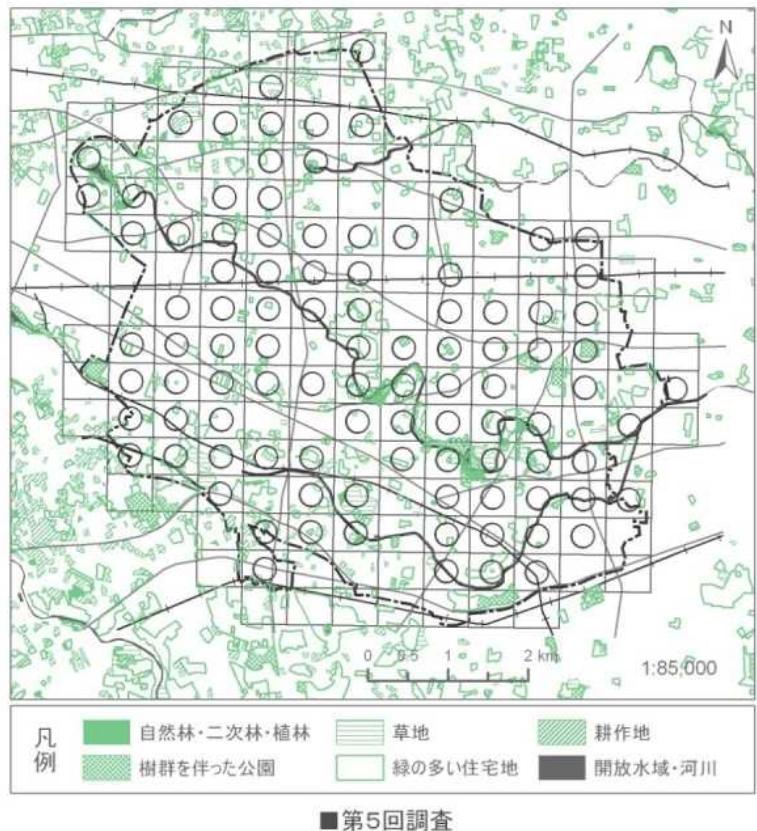
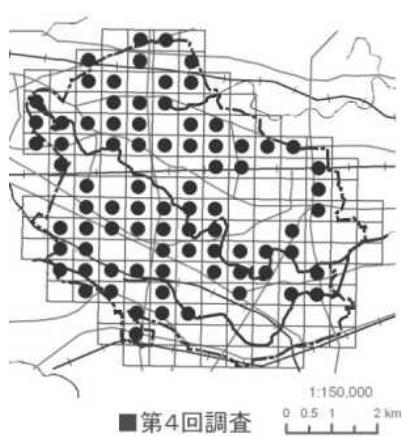
イヌタデ

日当たりのよい道ばたで踏圧の少ないところに生育する農村などではごく普通にみられる植物です。

第4回と今回の調査で調査対象となりました。前回よりも今回の調査の方が分布する地点数が多く、身近にみられる植物といえます。



注: 第1回調査、第2回調査及び第3回
調査では調査されなかった



3 動物

(1) クモ類

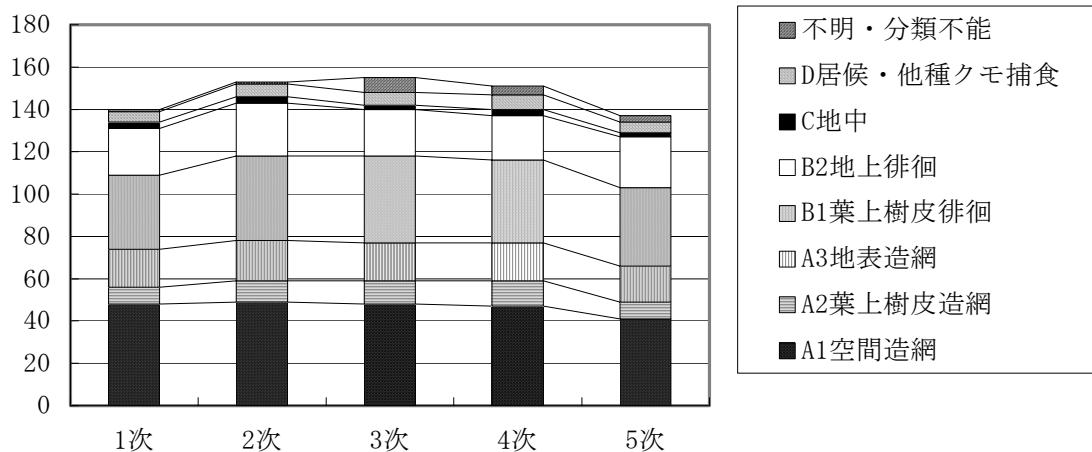
今回の自然環境調査で、杉並区内 18ヶ所の調査地点と調査地点外の 1ヶ所から 27科 138種類のクモ類が確認されました。これは過去の調査と同じぐらいの種類数で、過去の調査もあわせると杉並区内で確認されたクモ類は 31科 209種類にのぼります。

クモ類は、昆虫類や節足動物を餌とし、規模の小さな環境でも餌が安定して供給されれば生息が可能な生き物です。このため杉並区内では大きな都市公園をはじめ、屋敷林や社寺林のような小規模であっても年月を経て安定した林には様々なクモ類が生息しています。

クモ類は生活のしかた(生活型)によって、網を張って獲物を捕らえる造網型、歩き回って獲物を探す徘徊型、地中に穴を掘って住む地中型、他のクモのすみかに居候する居候型、他のクモを捕食する他種クモ捕食型などがあります。さらに利用する場所によって、造網型には空間造網型・葉上造網型・地表造網型が、徘徊型には葉上樹皮徘徊型・地上徘徊型があります。下のグラフに示すとおり、これまでの調査で確認されたクモ類のなかでは空間造網型と葉上樹皮徘徊型の割合が多く、その割合には年ごとの変化はみられませんでした。

貴重な種類(環境省のレッドデータブックに入っている種類、区内で希少な種類、山地性の種類、豊かな森林に生息する種類、区内で減少しつつある種類など)や環境指標となる種類(杉並区の環境の状態を示す種類)を注目種といいますが、今回の調査では 12科 13種 2種群の注目種が確認されました。これらの注目種は前回までの調査時の確認種に比べて増減はみられません。

クモ類の生活型ごとの出現種類数と経年変化



注目種

科	種類名	貴重性		指標性 ^{※3}	調査年次				
		国 ^{※1}	区 ^{※2}		1次	2次	3次	4次	5次
カネコトタテグモ	カネコトタテグモ	NT			●	●		●	
トタテグモ	キシノウエトタテグモ	NT			●	●	●	●	●
ジグモ	ワスレナグモ	NT			●	●	●	●	●
ウズグモ	マネキグモ		4		●	●	●	●	●
ヒメグモ	オナガグモ		3・4			●	●		
サラグモ	コデーニツツサラグモ		3・4		●	●	●	●	●
	ユノハマサラグモ		1・3		●		●		
コガネグモ	キザハシオニグモ		2・4		●	●	●	●	●
	ナガコガネグモ		3・4		●	●		●	●
	コガタコガネグモ		3・4			●	●	●	●
カニグモ	コハナグモ		4		●	●	●	●	●
	アマギエビスグモ		2・4		●	●	●	●	●
ハエトリグモ	メスジロハエトリ		4		●	●	●	●	●
コガネグモ	オニグモ			a	●	●	●	●	●
	ナガコガネグモ			a	●	●		●	
	コガネグモ			a	未確認				
アシナガグモ	ジョロウグモ			a	●	●	●	●	●
	アシナガグモ			a	●	●	●	●	●
コモリグモ	コモリグモ類			a	●	●	●	●	●
フクログモ	ウラシマグモ類			a	●	●	●	●	●
ササグモ	ササグモ			a	●	●	●	●	●

※1 環境庁レッドデータ

NT : 準絶滅危惧

※2 杉並区独自の注目種（国や都のレッドデータ種以外）の選定基準

1 : 貴重種、希少種

2 : 山地性種

3 : 豊かな森林に生息する種類

4 : 杉並区で減少しつつある種類

※3 指標する項目（指標する環境については後に詳解）

a : 自然環境の質

b : 環境変化

■区内の分布の変化

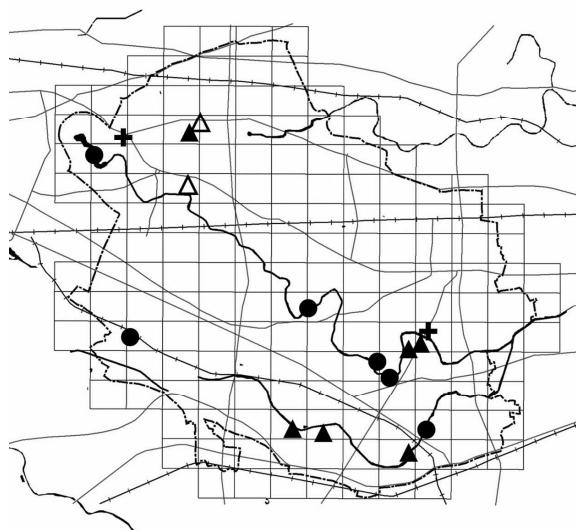
クモ類の中でも、種類によって生息する分布に変化が見られます。ここでは注目種でもあるキシノウエトタテグモとコガタコガネグモをとりあげました。

キシノウエトタテグモは地中に穴を掘って生息し、巣穴の入口をふたでふさぐという特徴をもっており、土の地面があれば民家の庭でも生息できる種類です。これまでの調査では調査地点の半数以上で継続的に生息が確認されています。

コガタコガネグモは木々のあいだに網を張る造網型のクモで、樹林に生息する種類です。今回の調査では新しい地点での確認は1ヶ所でしたが、過去に確認された地点での確認はありませんでした。確認された地点は減っており、徐々に分布域が狭くなっています。

このように、種類によってあまり分布の変化がなかつたり、分布が狭くなったりしていますが、調査を行っていると同じ地点で確認されるクモ類の個体数は過去の調査に比べて少なくなっている印象があり、杉並区内でのクモ類の生息環境が悪化していることがうかがえます。また今後は、個体数だけでなく全体の種類数の減少も心配されます。

キシノウエトタテグモの分布と経年変化



コガタコガネグモの分布と経年変化



これまでの出現のパターンと図の記号

図の記号	区分	出現パターン				
		1次	2次	3次	4次	5次
◎	今回初めて出現している					☆
●	過去に出現し、今回も出現している	◀	☆	▶		
○	過去に出現し、途中記録がないが今回再び出現している	◀	☆	▶		☆
▲	過去に出現したが、今回は出現していない	◀	☆	▶	☆	
△	3次調査以前にしか記録がない	◀	☆	▶	☆	
+	2次調査以前にしか記録がない	◀	☆	▶		

☆ : この回で記録があった。

◀☆▶ : この範囲内で記録があった。

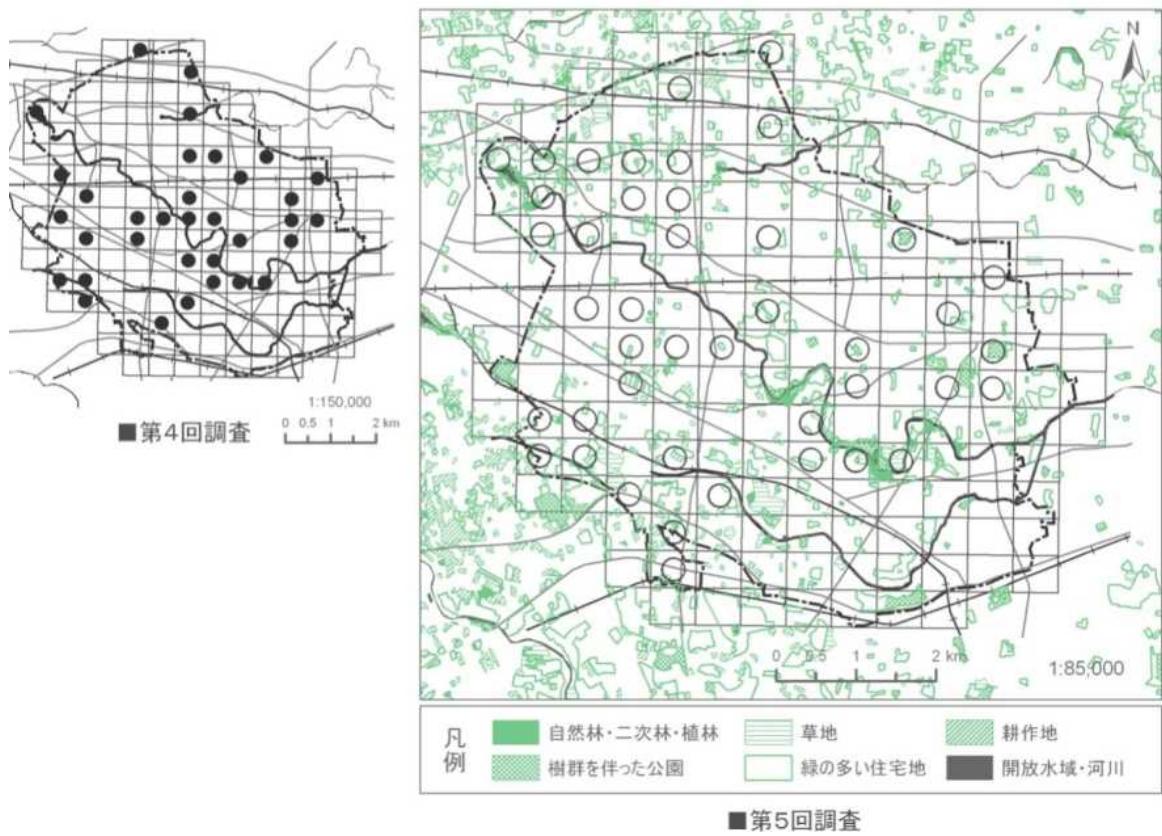
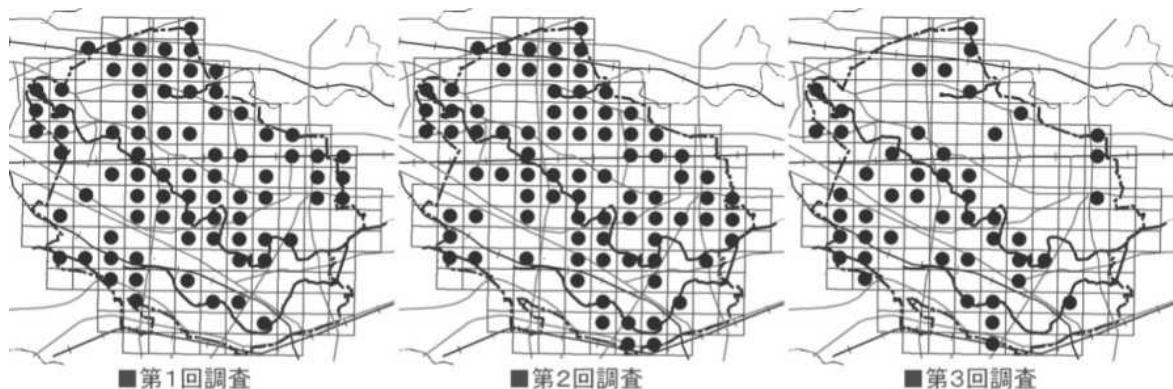
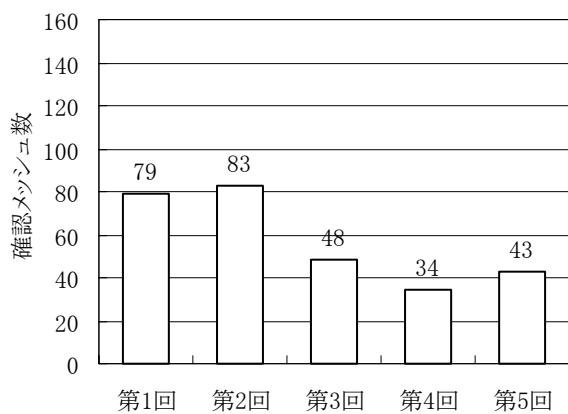
■主なクモの生育状況と環境

すぎなみの生き物アンケート調査の結果のなかから、杉並区の環境の特徴をよく表しているジョロウグモ、オニグモの2種類について区内での分布状況を紹介します。

ジョロウグモ

秋になると胴体に黄色と赤が目立つ大型のクモで、公園の樹木や庭木、生垣の間などに大きな円い網を張り、昼も夜も網の真ん中にいます。

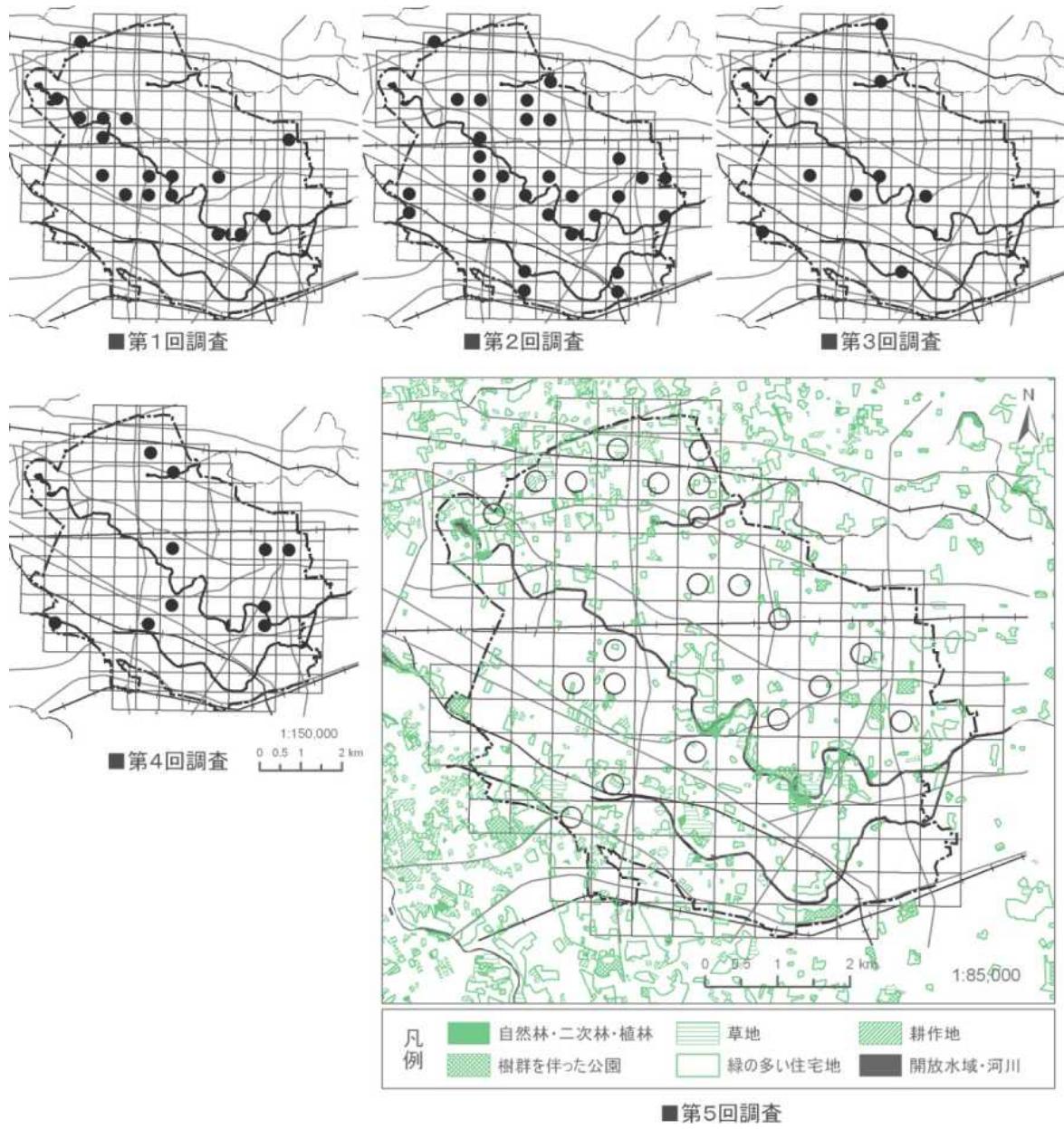
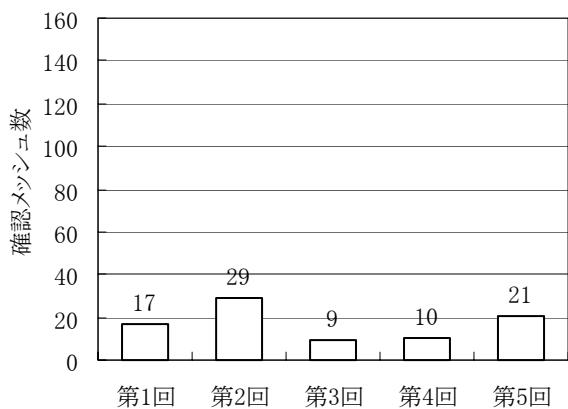
第1回や第2回の調査にくらべ徐々に減少していましたが、今回の調査ではやや確認地点が増えました。今回確認された場所は、みどりの多いところだけでなく、少ないところでも確認されているようです。また、区の南東部では確認されていない場所が目立ちます。



オニグモ

庭木の多い住宅地などにみられる黒っぽい色をした大型のクモです。夜行性のため昼間は樹木の葉の陰や軒下などに隠れていますが、夕方になると丸い大きな網を張ります。照明に集まつくる蛾などの昆虫をとらえているのがみられます。

ジョロウグモより分布は限られ、第3回と第4回の調査では分布が減少しましたが、今回の調査では回復しているのが確認されました。みどりの多い場所に分布する傾向はみられませんでしたが、どちらかというと区内の北寄りでよく確認されています。



■第5回調査

(2) 昆虫類

今回の調査で確認された昆虫類は 220 科 1106 種類です。これまでの調査では合計 251 科 1444 種類が確認されています。これらの昆虫類には市街化が進む中で生息できなくなった種類も多いですが、小さくとも多様な環境を利用している種類や、孤立した場所でも生息できる種類もいて、全体として多様な昆虫が見られます。また、今回の調査では過去の調査に比べて大きく種類数が増加しています。

では、杉並区の昆虫類はなぜ増えているのでしょうか？

はっきりした理由はわかりませんが、「調査の期間が長くなり回数も多かった」、「緑地や河川の環境が良くなり学校ビオトープなど新しい環境もできた」、「昆虫類が食性を変化させて都会でも生息できるようになった」、「鳥などの天敵の減少」などが考えられます。

確認された種類のうち、貴重な種類(環境省や東京都のレッドデータブックに入っている種類、区内で希少な種類、区内で減少しつつある種類など)や環境指標となる種類(杉並区の環境の状態を示す種類)を注目種といいますが、こういった注目種は今回 79 種類が確認されています。これらは絶滅が心配される種類でもあり、区内で保護する必要があります。確認された注目種の種類数は、前回までに比べて大きく増えていますが、これはとくにコウチュウ類、バッタ類での注目種が増えたことによります。なお、このうちグンバイトンボ、オオクワガタ、ハイケボタル、オオムラサキ、ミスジチョウは人為移入(放虫由来)と考えられ、杉並区における本来の貴重性には当たらない種と考えられます。

昆虫類の出現種類数

目名	第1次調査		第2次調査		第3次調査		第4次調査		第5次調査		総合	
	科数	種類数	科数	種類数	科数	種類数	科数	種類数	科数	種類数	科数	種類数
カゲロウ目	0	0	0	0	0	0	1	1	4	5	4	5
トンボ目	8	18	6	18	6	19	9	34	9	36	9	42
ゴキブリ目	2	3	2	4	2	3	2	4	2	4	2	5
カマキリ目	1	4	1	3	1	3	1	4	1	5	1	5
シロアリ目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
バッタ目	10	23	12	24	11	21	10	20	14	49	15	57
ナナフシ目	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	3
ハサミムシ目	3	3	2	3	1	1	2	4	2	4	3	5
チャタデムシ目	1	1	1	1	0	0	1(1)	1(1)	0	0	1	2
シラミ目	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	1	1
カメムシ目/セミ亜目	18	32	11	44	10	25	12	24	20	51	25	89
カメムシ目/カメムシ亜目	12	24	13	27	12	27	16	30	26	107	27	121
アミカゲロウ目	1	2	2	2	3	5	2	4	5	12	6	17
コウチュウ目	28	121	25	118	23	94	20	99	53	421	59	499
ハチ目	7	25	12	42	12	43	15	60	23	106	25	128
ノミ目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ハエ目	16	35	14	31(1)	16	33	14	31	24	76	29	102
トビケラ目	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
チョウ目/ガ類	10	28	17	120	24	189	21	54	26	173	32	302
チョウ目/チョウ類	8	37	8	37	9	42	8	39	8	53	8	58
合計	128	359	130	479	134	509	138	413	220	1106	251	1444

※種類までの同定がされていないものについては、同一の調査年次に同一の分類群に属する種類が確認されていない場合は計数した。

※第2次調査における括弧内の数字は、科まで同定されたものの種類数の内訳を示す。

※第4次調査における括弧内の数字は、目まで同定されたものの科・種類数の内訳を示す。

注目種

目	科	種類名	貴重性			指標性 ^{※4}	調査年次					人為分布と考 えられる種
			国 ^{※1}	都 ^{※2}	区 ^{※3}		1次	2次	3次	4次	5次	
トンボ	イトトンボ	セスジイトトンボ		C			●	●	●	●	●	
		オオイトトンボ		C					●			
		キイトトンボ		B	a			●	●			
		ベニイトトンボ	VU	A						●	●	
		アオモントンボ		C			●	●	●	●	●	
	モノサシトンボ	グンバイトンボ	NT					●	●			○
		ホソミオツネントンボ		B			●			●	●	
	アオイトトンボ	アオイトトンボ		B				●	●	●	●	
		オオアオイトトンボ		B				●	●	●	●	
	カワトンボ	ハグロトンボ		A	a			●	●	●	●	
ヤンマ	サナエトンボ	ウチワヤンマ		C			●	●	●	●	●	
	オニヤンマ	オニヤンマ		B			●	●	●	●	●	
	マルタンヤンマ			B				●	●	●	●	
	クロスジギンヤンマ			C			●	●	●	●	●	
	カトリヤンマ			A			●					
	ヤブヤンマ			B					●	●	●	
	エゾトンボ	オオヤマトンボ		C			●	●	●	●	●	
	コヤマトンボ			B					●	●	●	
	トンボ	ショウジョウトンボ		C	b		●	●	●	●	●	
	ハラビロトンボ			B					●	●	●	
カマキリ	シオヤトンボ			B						●	●	
	コシアキトンボ				a		●	●	●	●	●	
	チョウトンボ			C				●				
	コノシメトンボ			C					●	●	●	
	ナツアカネ			C			●	●	●	●	●	
	マユタデアカネ			C					●	●	●	
	マイコアカネ			C						●	●	
	ミヤマアカネ			B					●	●	●	
	リスアカネ			B					●	●	●	
	ネキトンボ			C					●	●	●	
カマキリ	カマキリ	カマキリ類			a		●	●	●	●	●	
バッタ	コロギス	ハネナシコロギス		C					●			
		ミツカドコオロギ			a		●	●	●	●	●	
		エンマコオロギ			a		●	●	●	●	●	
		クサヒバリ	キンヒバリ	B								
	バッタ	カネタタキ			a		●	●	●	●	●	
	キリギリス	カヤキリ		B								
	バッタ	クルマバッタ		C			●					
	ショウリョウバッタモドキ			C					●	●	●	
	カメムシ	セミ	ニイニイゼミ			a・b	●	●	●	●	●	
		クマゼミ		C	b		●	●	●	●	●	
カメムシ		ヒグラシ		C	a・b		●	●	●	●	●	
		セミの発生時期			b	—	—	—	—	—	—	
	カメムシ	ツマグロオオヨコバイ			b		●	●	●	●	●	
		アメンボ			b		●	●	●	●	●	
	ツチカメムシ	シロヘリツチカメムシ	NT				●	●	●	●	●	
	コウチュウ	ハンミョウ	コハンミョウ	C						●		
	オサムシ	ヒメマイマイカブリ		C						●		
		クロツヤヒラタゴミムシ		C							●	
		キアシマルガタゴミムシ		C			●	●				
		トックリゴミムシ		C						●		
カミキリムシ		イクビホソアトキリゴミムシ		C						●		
		アオヘリホソゴミムシ		C						●		
	コウチュウ	徘徊性コウチュウ			a	—	—	—	—	—	—	
	ハネカクシ	ニセメダカハネカクシ		C						●		
	クワガタムシ	オオクワガタ	VU		a		●	●	●	●	●	○
	コガネムシ	オオキイロヨガネ		A						●		
		アオドウガネ			b				●	●	●	
		ヒメトラハナムグリ		B					●	●	●	
		クロカナブン		C			●	●	●			
	タマムシ	ヤマトタマムシ		B			●	●				
ホタル	ホタル	ヘイケボタル		A			●	●				○
	カミキリムシ	キマダラカミキリ		B			●	●		●		
		マルクビケマダラカミキリ		B			●	●				
		アカアシオオアオカミキリ		B						●		
		キスジトラカミキリ		C			●					
	ゾウムシ	ブドウトラカミキリ		C			●			●		
		ヤノシギゾウムシ		C						●		
		タテスジアカヒメゾウムシ		C						●		
ハチ	アリ	アシナガアリ				a						
	スズメバチ	アシナガバチ類			a		●	●	●	●	●	

目	科	種類名	貴重性			指標性 ^{※4}	調査年次					人為分布と考 えられる種
			国 ^{※1}	都 ^{※2}	区 ^{※3}		1次	2次	3次	4次	5次	
チョウ	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ			2			●	●	●	●	
		モンキアゲハ			1			●	●	●	●	
	シロチョウ	ツマキチョウ				a	●	●	●	●	●	
	シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ	B				●	●		●	●	
		アカシジミ	D									
		ベニシジミ			a	●	●	●	●	●	●	
		ゴイシシジミ	A				●	●	●	●	●	
	ウラギンシジミチョウ	ウラギンシジミ				a・b	●	●	●	●	●	
	テングチョウ	テングチョウ	A				●	●	●	●	●	
	タテハチョウ	オオウラギンスジヒョウモン	D					●	●			
		ウラギンヒョウモン	D					●	●			
		ゴマダラチョウ			a	●	●	●	●	●	●	
		イチモンジチョウ	D					●	●			
		クモガタヒョウモン	D						●	●		
		ミスジチョウ	D							●	●	○
		コミスジ	A				●	●	●	●	●	
		ヒオドシチョウ	A				●		●	●	●	
	オオムラサキ		NT	D			●					○
ジャノメチョウ	クロコノマチョウ			1	b				●	●		
	ジャノメチョウ		A							●	●	
	コジャノメ		A							●	●	
	ヒメジャノメ				a	●	●	●	●	●	●	
	サトキマダラヒカゲ		A		a	●	●	●	●	●	●	
	ドクガ	チャドクガ			b	●	●	●	●	●	●	
7目	38科	97種類	5	71	3	27	35	38	40	53	79	

※1 環境省レッドデータ

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧

※2 東京都レッドデータ（区部におけるランク）

A：絶滅の危機に瀕している種類、B：絶滅の危機が増大している種類

C：生息環境の変化によりAランクやBランクへの移行が危惧される種類、D：野生で絶滅と判断される種類

※3 杉並区独自の注目種（国や都のレッドデータ種以外）の選定基準

1：元来、区内での分布が限られ数が少ない種（貴重種、希少種）

2：元来、区内の広い範囲に分布していたが、近年減少している種

※4 指標する項目（指標する環境については後に詳解）

a：自然環境の質

b：環境変化

杉並の昆虫相の特徴として、グンバイトンボ、オオクワガタ、ヘイケボタルなどなど、明らかな人為移入またはそれが疑われる記録が多いことが挙げられます。

このような人為移入の問題は近年他の地域（特に都市域）でも指摘されおり、たとえ過去に生息していた種類・あるいは現在も生息する種類であっても、他の地域のものを安易に野外へ放すことは、地域在来の生物相への悪影響が懸念されることから行うべきではありません。このような身近な自然の保全に対するモラルの低下に心痛める事件が多くなってきたことは、大変寂しい限りです。

■チョウ類の区内の分布とその変化

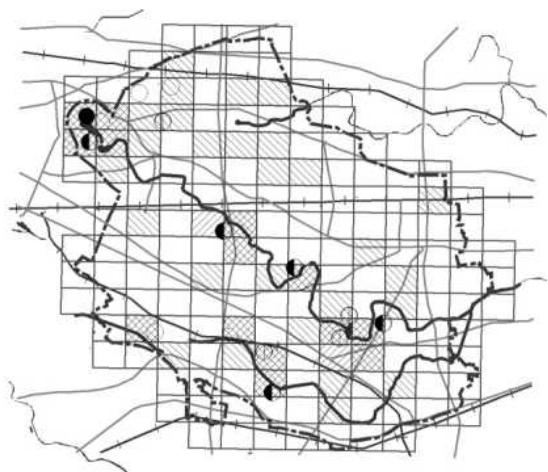
チョウ類の中でも代表的な4種類について、区内での分布のうつりかわりの様子を見ました。

ゴマダラチョウとミズイロオナガシジミは雑木林を好む種類ですが、もともと比較的広い範囲で見られていましたゴマダラチョウはさらに分布を広げています。一方もともと分布がごく限られていたミズイロオナガシジミは、過去に記録のあるところで見られたほか、ごくわずかですが分布を広げています。この2種類のような分布を広げている種類はほかにも確認されています。

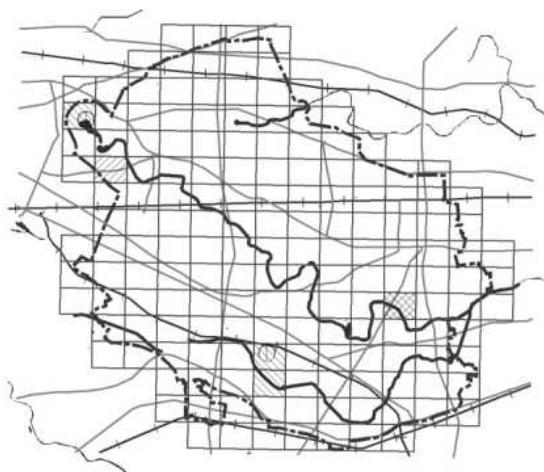
ツマキチョウはかつてはそれほど広い範囲で見られた種類ではないのですが、幼虫が食べる食草の種類の幅を広げることで急速に分布を広げています。このような食草の拡大は、ほかにもルリタテハなどでもみられ、蝶類が都市で生息していくために様々な適応をしているのがわかります。

ツマグロヒョウモンは南方系の蝶で、これまで区内で確認されたことがありませんでしたが、今回の調査では区内全域にわたって分布を拡大しているのが明らかになりました。ツマグロヒョウモンのほかにも南方系の蝶が何種類か確認されており、要因としては杉並区の気候が温暖化したことと関係していると考えられています。

ゴマダラチョウの分布とその増減



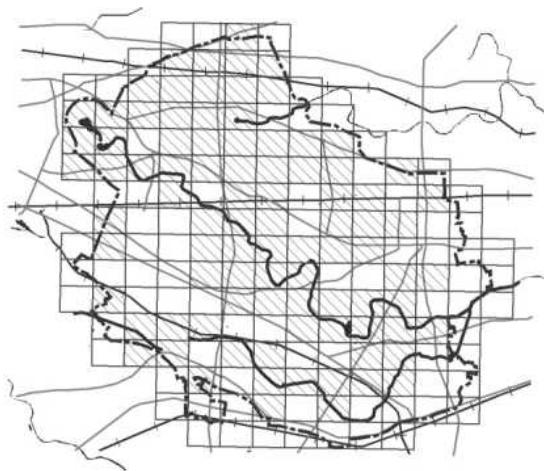
ミズイロオナガシジミの分布とその増減



ツマキチョウの分布とその増減



ツマグロヒヨウモンの分布とその増減



凡例

記号	区分	出現パターン				
		1次	2次	3次	4次	5次
○	第1次調査による確認地点。	●				
○	第2次調査による確認地点。および第1次調査・第2次調査とともに確認された地点。		●			
○	第3次調査による確認地点。および第1次調査・第3次調査確認、第2次調査・第3次調査確認地点。	●	●			
●	第1～3次調査に重複確認地点。	●	●	●		
	第4次調査による確認。				●	
	第5次調査による確認地点。					●

■トンボ類の区内の分布とその変化

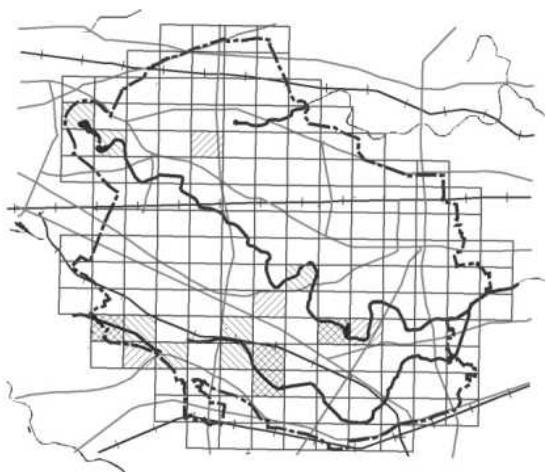
トンボ類の中でも代表的な4種類について、区内での分布のうつりかわりの様子を見ました。

ハグロトンボは流水を好む種類で、区内では川沿いを中心に局所的に分布する種類ですが、第4回の調査で確認されたされたあと徐々に分布を広げています。

ヤブヤンマは木陰などがある薄暗い水辺を好む種類で、もともと分布がごく限られた種類ですが、区内の南側での分布がわずかですが広がっています。また、区内の北側で分布していたところでは今回は確認されませんでした。これは善福寺池で水辺の植物が刈り取られるなどの環境の変化が影響しているのかもしれません。

ギンヤンマとショウジョウトンボは、一時期分布が狭くなってしまっていたのが回復して、分布が広がった種類です。特にショウジョウトンボの回復は著しく、区内で広く見られるようになりました。これは学校ビオトープの普及で池などが増えたことや、プールからヤゴを救出する活動の成果が現れていると考えられます。この他にも生き物に配慮した河川管理の取り組みなどもあって、杉並区内でのトンボ類は増加傾向にあります。

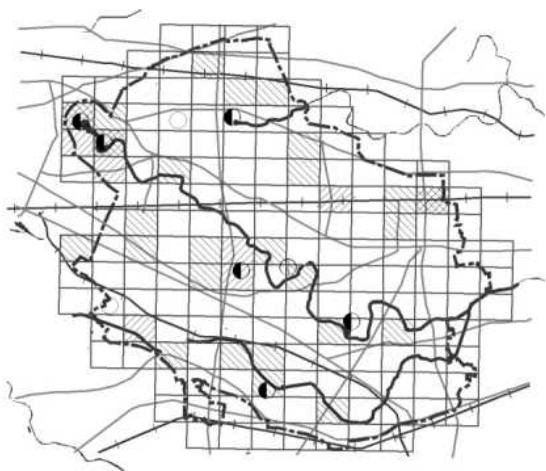
ハグロトンボの分布とその増減



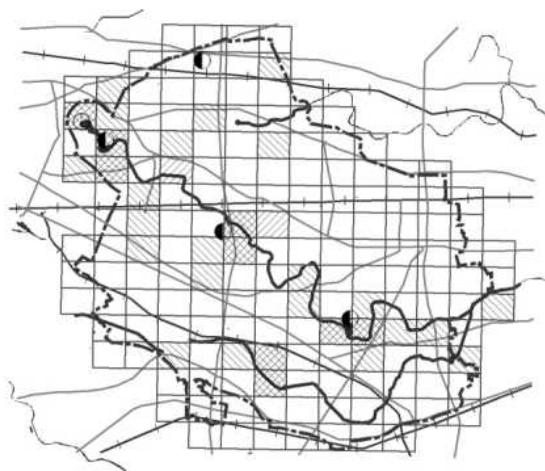
ヤブヤンマの分布とその増減



ギンヤンマの分布とその増減



ショウジョウトンボの分布とその増減



凡例

記号	区分	出現パターン				
		1次	2次	3次	4次	5次
○	第1次調査による確認地点。	●				
○	第2次調査による確認地点。および第1次調査・第2次調査とともに確認された地点。		●			
○	第3次調査による確認地点。および第1次調査・第3次調査確認、第2次調査・第3次調査確認地点。	●	●			
●	第1～3次調査に重複確認地点。	●	●	●		
	第4次調査による確認。				●	
	第5次調査による確認地点。					●

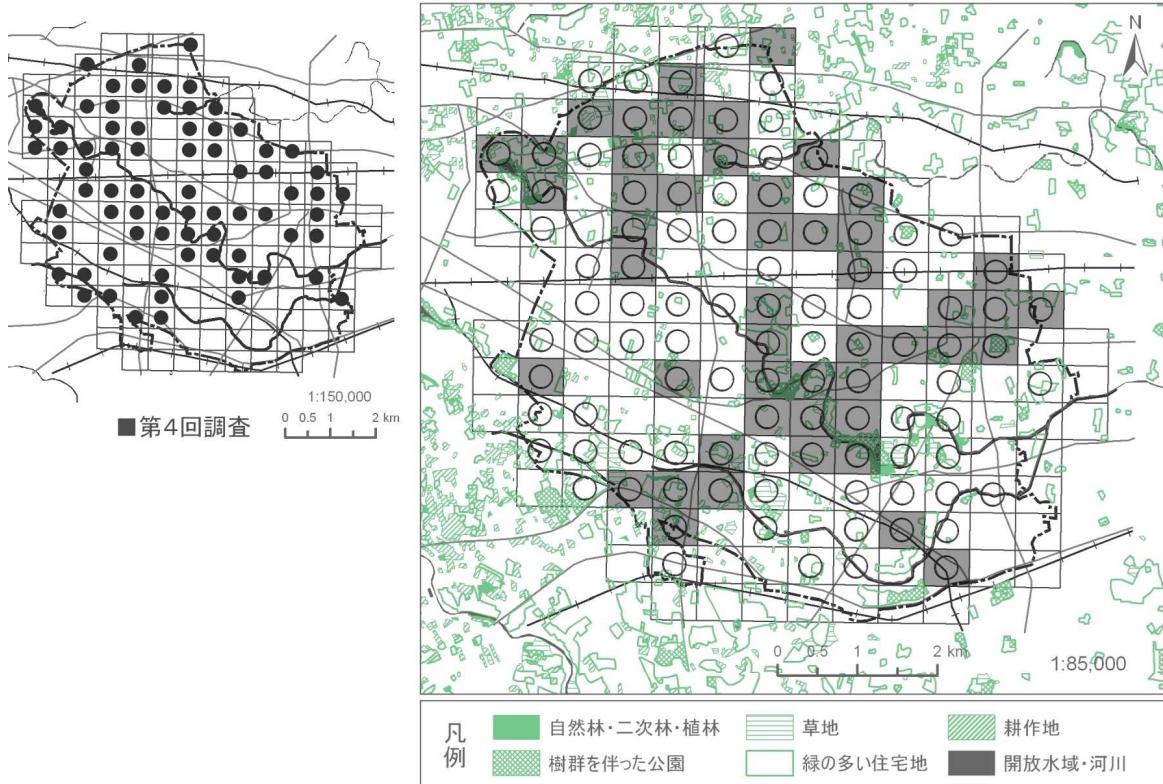
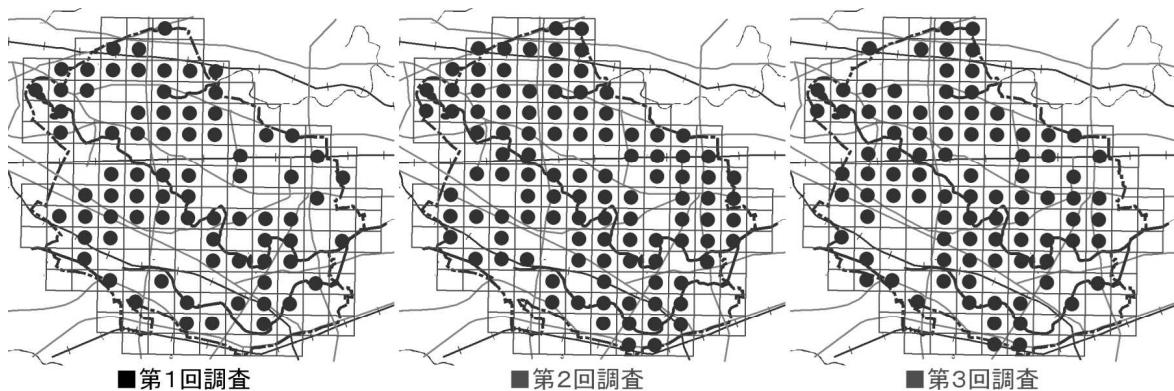
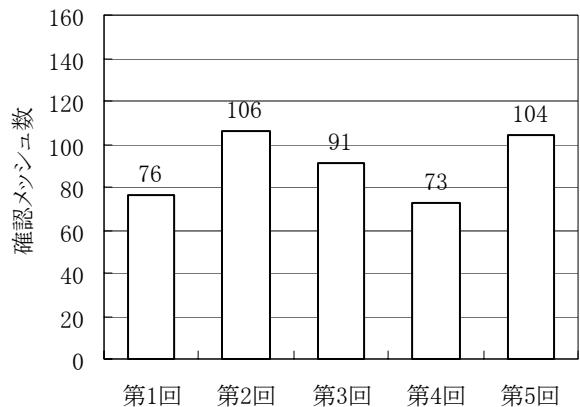
■主な昆虫の生育状況と環境

すぎなみの生き物アンケート調査の結果で、杉並区の環境の特徴をよく表している種類の区内での分布状況を紹介します。

アブラゼミ

樹木のあるところならどこでもみられる杉並区の代表的なセミです。羽が茶色で、夏に「ジージリジリジリ……」と鳴いている姿をみかけます。成虫になるには6年もかかります。

今回の調査では、もっとも確認の多かった第2回の調査と同じくらいの場所で確認されました。確認された場所は全域に広がっており、特にみどりが多い場所でよく確認されているということはありませんでした。しかし、脱け殻が確認された場所はそれほど多くなく、産卵や幼虫が過ごす場所はあまり多くないと考えられます。

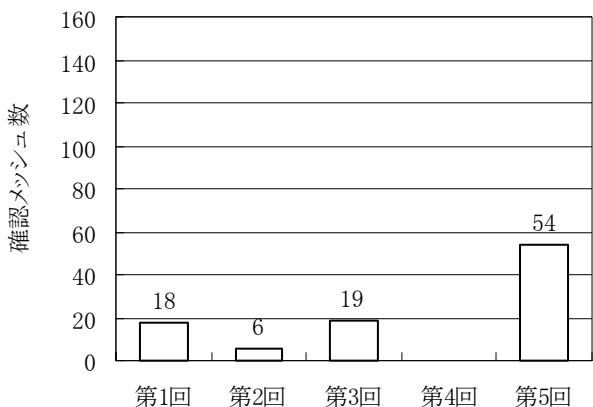


■第5回調査 ■は脱け殻の確認を示す

ニイニイゼミ

梅雨明けのころ、もっとも早くあらわれるセミで「チイ——」と一日中鳴きます。

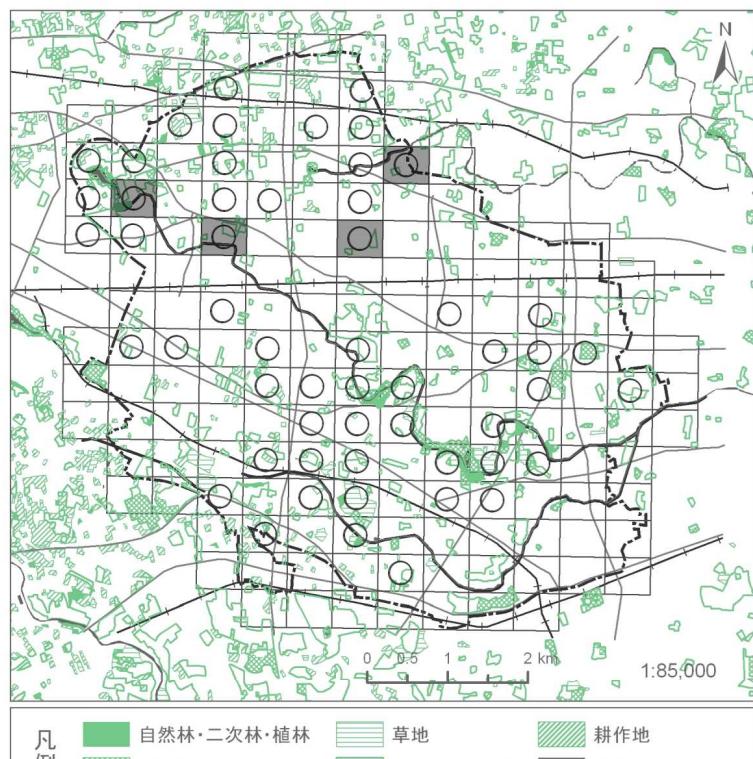
第1回から第3回にかけては分布が少ないセミでしたが、今回の調査ではみどりが多い場所を中心に区内で広く確認されました。しかし、脱け殻が確認された場所が少なくなっている、産卵や幼虫が過ごせる環境が少なくなっているものと考えられます。



注1:「脱け殻」調査だけの結果

注2:「脱け殻」調査結果と成虫確認結果

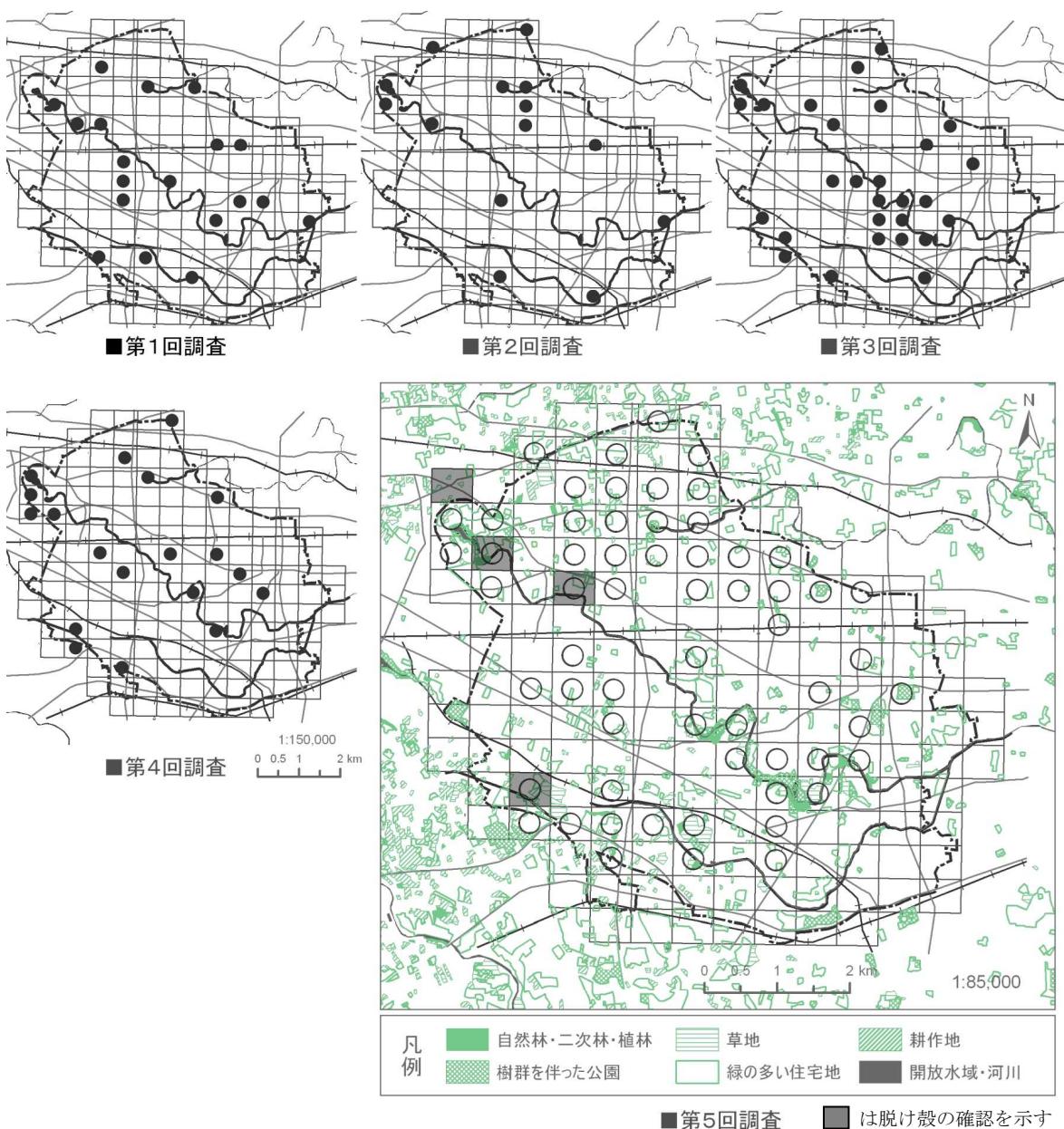
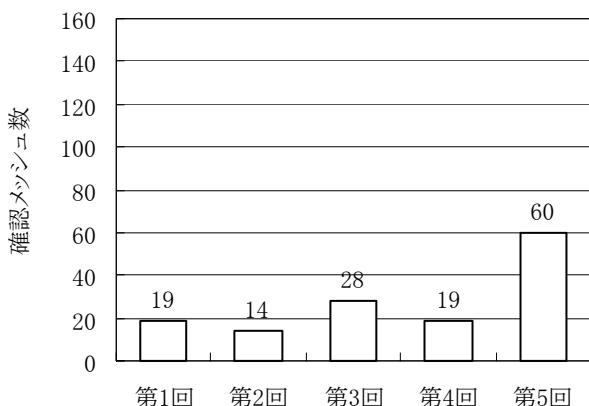
注3: 第4回調査では調査されなかった



ヒグラシ

日暮れ間近になると「カナカナカナ・・・」と鳴きだし、夜になることを知らせててくれるセミです。実際には夕方だけでなく明け方にも鳴きます。

第1回から第4回まで分布が少ないセミでしたが、今回は比較的広い範囲で見られました。しかし、脱け殻が確認された場所は非常に少なく、産卵や幼虫が過ごせる環境が少なくなっているものと考えられます。



(3) 鳥類

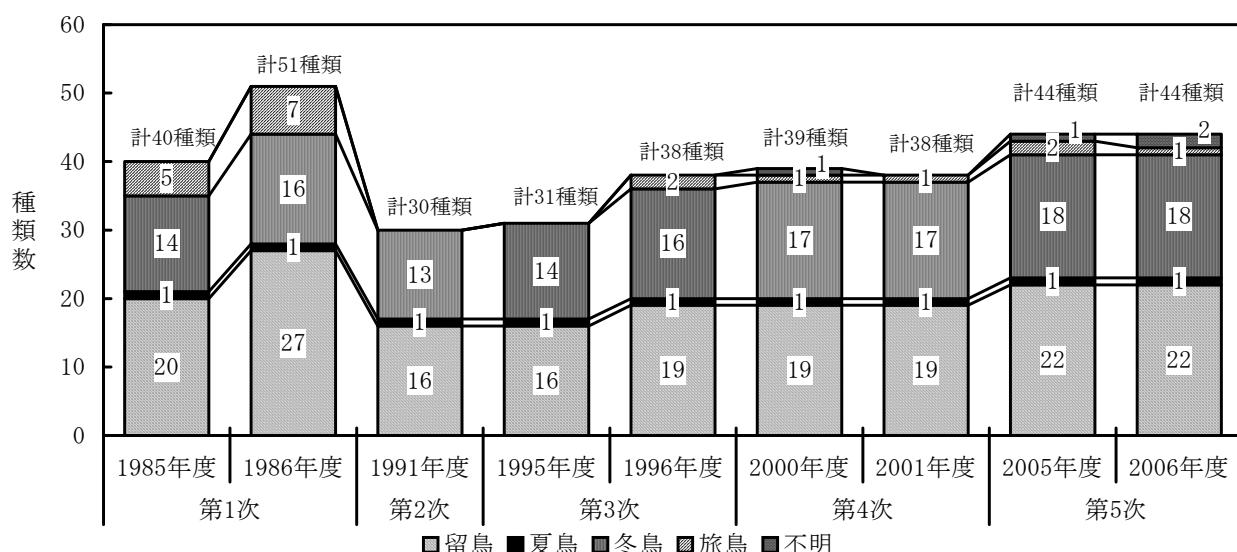
今回の自然環境調査では、鳥類は13目27科50種類が確認され、これまでの調査をあわせると確認された種類数は14目30科64種類です。過去の調査と比べると第1次調査から第2次調査にかけて種類数は一旦減少しましたが、それ以降は徐々に増加している傾向にあります。

杉並区は都市化が進んでいるため、市街地でも生息できるスズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、シジュウカラなどが全域でよく見られます。また区内には公園や緑地などみどりがまとまっているところや、河川や池などの水辺があちこちにありますが、そういった場所には市街地ではあまり見られない多様な鳥類が生息しています。例えば、善福寺公園は他の場所に比べて面積が広く、樹林や池などの様々な環境があることから、区内ではもっとも種類数や個体数が多く確認されています。

鳥類には夏鳥、冬鳥、旅鳥(春と秋の渡りの途中で見られる鳥)といった季節ごとに渡りするものや、留鳥(一年中同じところで生活する鳥)がいますが、区内で確認された種類の中では、夏鳥や旅鳥よりも留鳥と冬鳥の割合が多くしめています。冬鳥の中でもカモ類やサギ類などは増加傾向にあり、旅鳥は第1次調査で7種類確認された以降1～2種類と少なくなっています。

貴重な種類(環境省や東京都のレッドデータブックに入っている種類、杉並区を含む23区内で比較的稀な種類など)や環境指標となる種類(杉並区の環境の状態を示す種類)を注目種といいますが、今回の調査では10科13種類の注目種が確認されました。

渡り区分(夏鳥・冬鳥・旅鳥・留鳥)ごとの出現種類数



注目種

目	科	種類名	貴重性			指標性	調査回								
			国*1	都*2	区*3		1次		2次		3次		4次		
							1985 年度	1986 年度	1991 年度	1995 年度	1996 年度	2000 年度	2001 年度	2005 年度	2006 年度
コウノトリ	サギ	ダ・伊ギ		C				○			○	○	○	○	
		チュウサギ	NT	C							○	○	○	○	
カモ	カモ	オンドリ	DD	C							○	○	○	○	
		カルガモ				a	○	○	○	○	○	○	○	○	
カモ	カモ	トビ		C				○							
		オオタカ	NT	B										○	
		ツミ		C				○						○	
		ハヤブサ	チョウケンボウ	C				○					○	○	
ツル	クイナ	バン			●		○	○	○	○	○	○	○	○	
キツツキ	キツツキ	コゲラ				a	○	○	○	○	○	○	○	○	
スズメ	ツバメ	ツバメ				b	○	○	○	○	○	○	○	○	
	モズ	モズ				a	○	○	○	○	○	○	○		
	ウグイス	ウグイス		C		a	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ヒタキ	コサメヒタキ		A			○								
	カササギ	ヒタキ サンコウチョウ		A			○								
	エナガ	エナガ		C										○	
	シジュウカラ	ヤマガラ		C				○			○			○	
6目	13科	17種類	3	12	1	5	8	11	6	6	9	9	9	9	
														12	

※1 NT : 準絶滅危惧 DD : 情報不足

※2 東京都レッドデータ=区部ランク

A : 絶滅の危機に瀕している種。 B : 絶滅の危機が増大している種。

C : 生息環境の変化により A ランクや B ランクへの移行が危惧される種類

※3 23区内では比較的稀

※4 指標する項目(指標する環境については後に詳解)

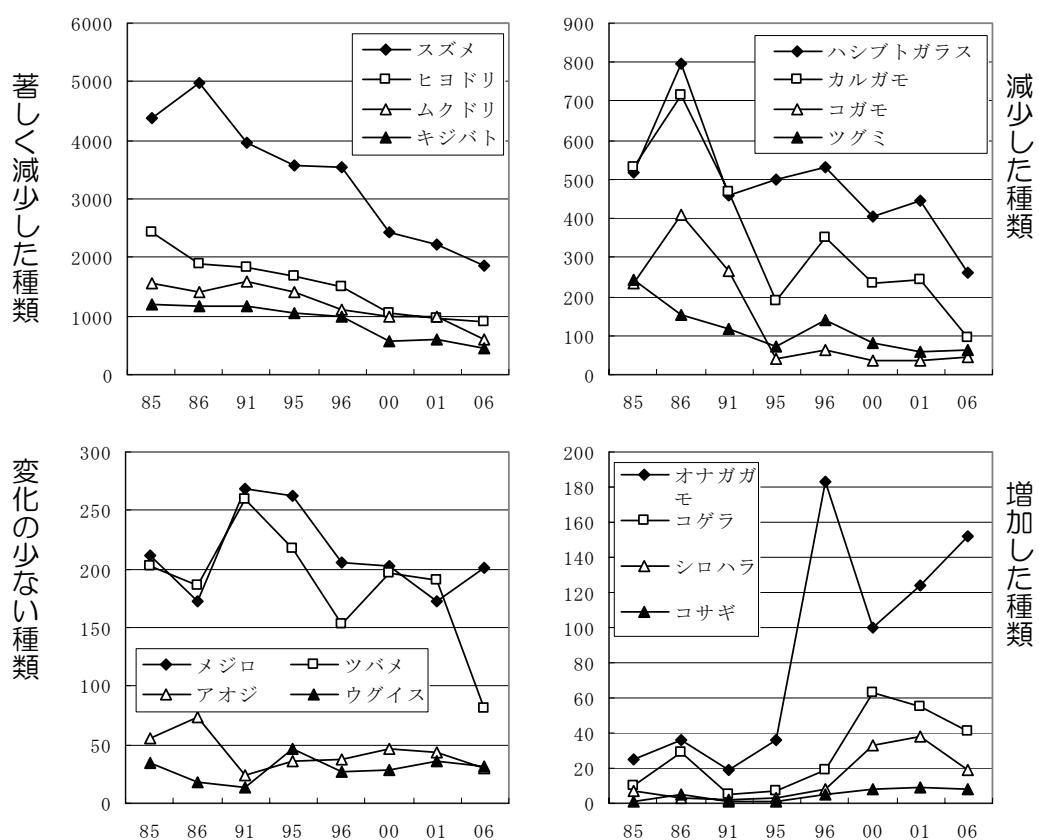
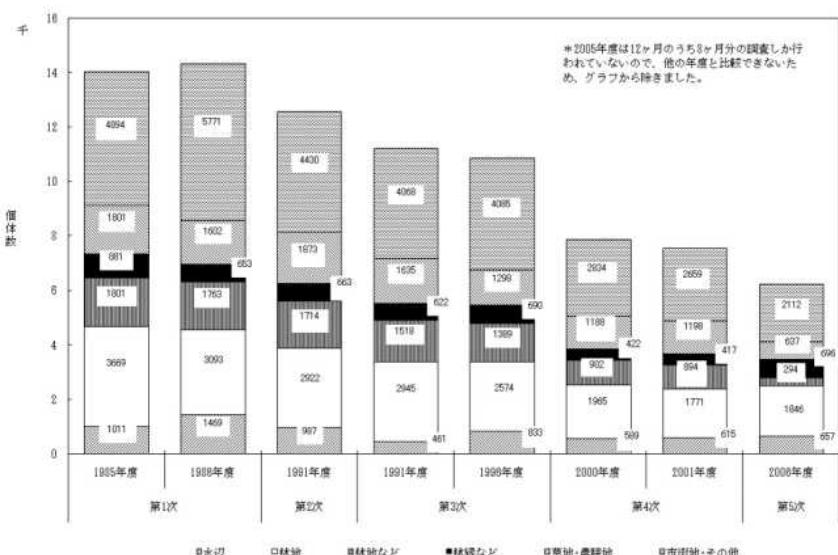
a : 自然環境の質 b : 環境変化

■区内に生息する鳥類の数の増減

これまでの調査で確認した鳥類の個体数を集計すると、第1次から徐々に減少していることが分かります。またその鳥類が好む生息環境ごとに区分けした場合、どの環境でも同じように減少しており、区内の様々な環境が鳥類の生息にとって悪くなっていることと考えられます。

それぞれの種類に注目すると、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバトのようにかつては1000羽以上の非常に多くの個体数が普通に見られたのに著しく減少した種類、ハシブトガラス、カルガモ、コガモ、ツグミのように普通にみられたのに減少した種類、メジロ、ツバメ、アオジ、ウグイスのようにあまり変化がない種類、オナガガモ、コグラ、シロハラ、ツグミのようにあまり見られなかったのに増加した種類などが見られました。

鳥が好む生息環境ごとの出現個体数の変化



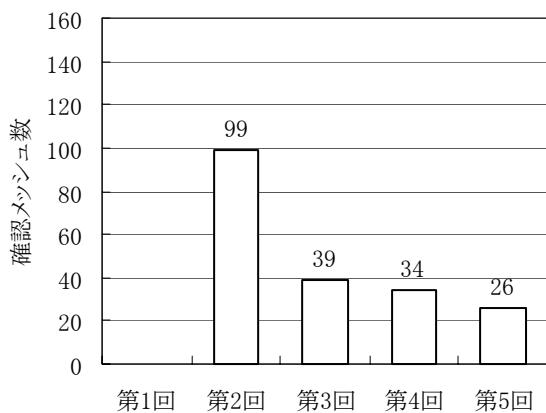
■特徴的な鳥類の生息状況と生態

すぎなみの生き物アンケート調査の結果から、杉並区に生息する特徴的な鳥類の生息状況や、食べ物の好み(食性)といった鳥類の生態を紹介します。

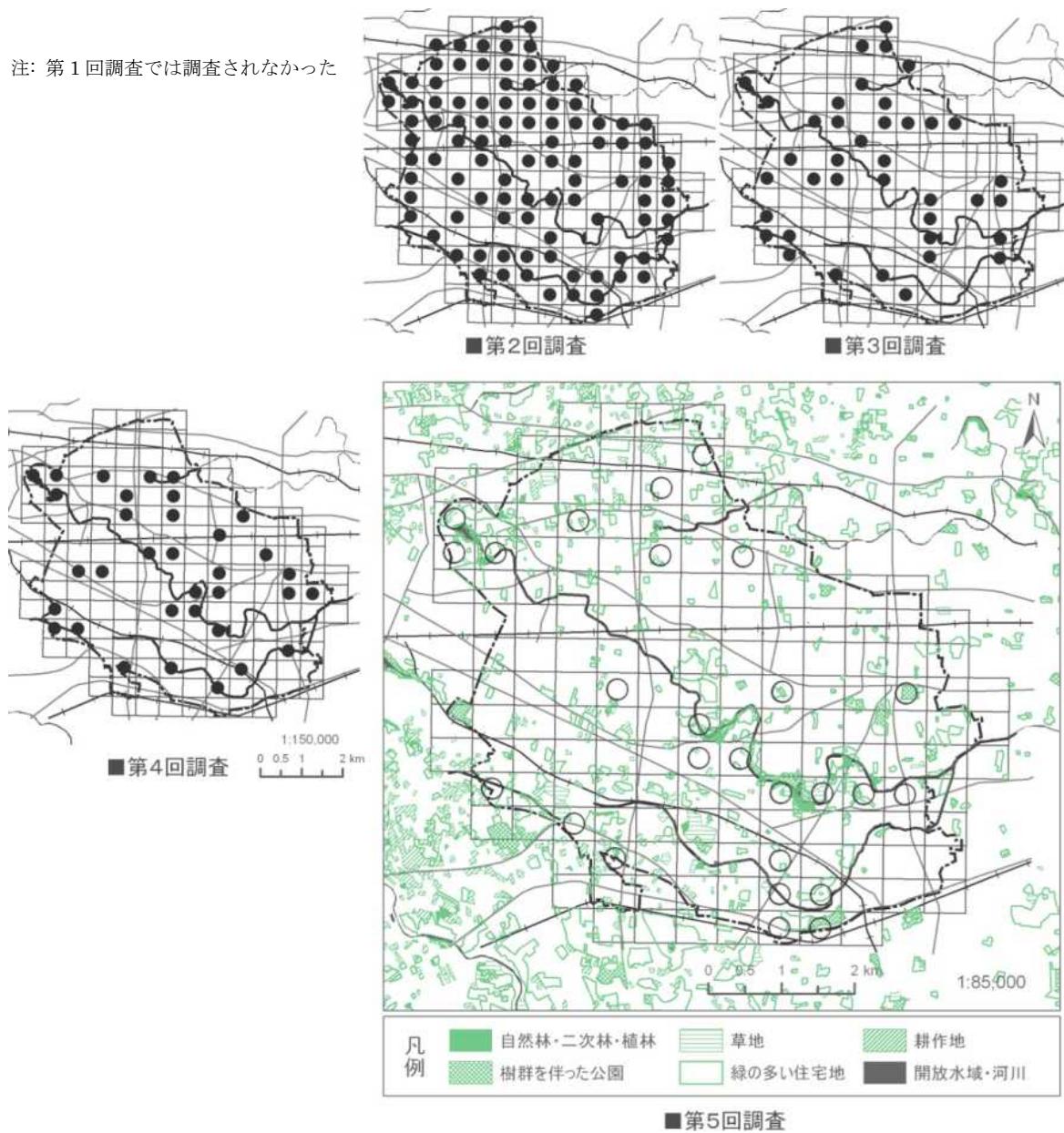
代表的な冬の鳥—ウグイス

杉並区では冬によく見られ、山地から冬を過ごすために下りてくると考えられています。竹藪や草むらなどを好む鳥です。

アンケート調査では、第2回調査以降徐々に減少し、今回の調査では約1/4程度にまで減少してしまいました。今回確認された場所は、公園や緑地があってみどりの多いところでよく確認されています。また、市街地でもみどりの多い住宅地があるところでも確認されています。



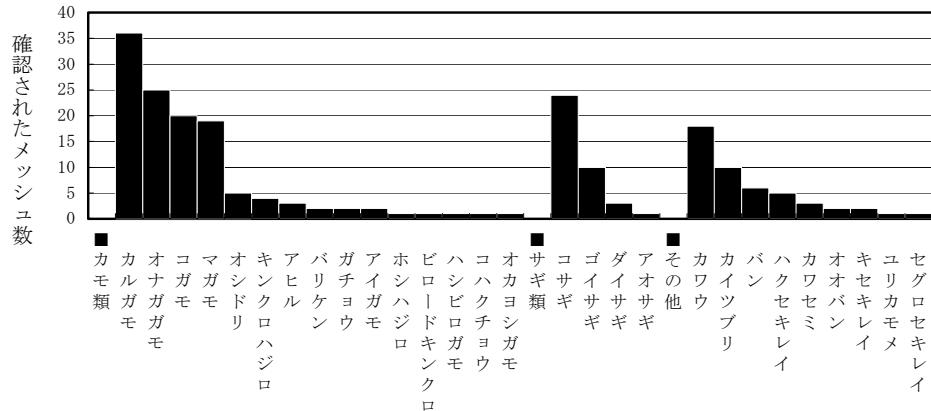
注: 第1回調査では調査されなかった



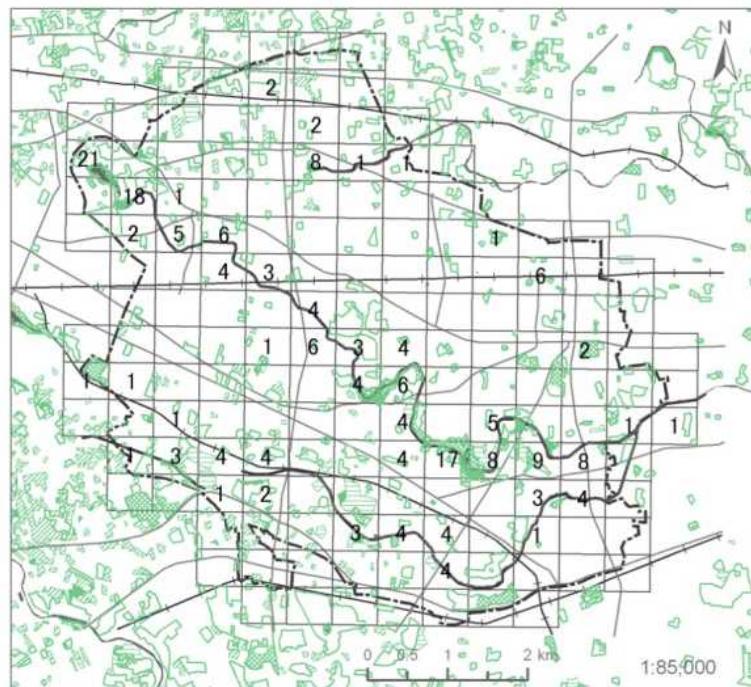
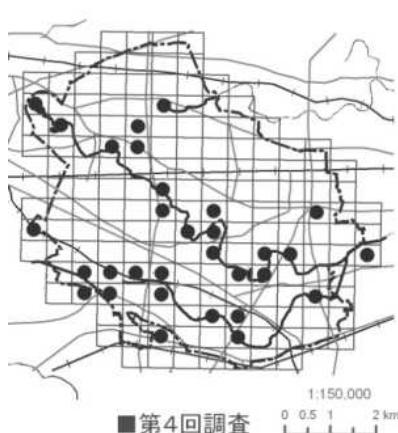
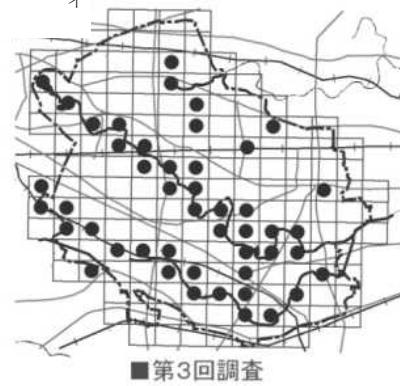
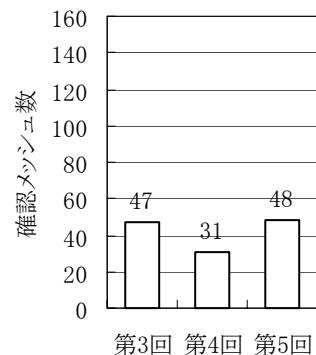
冬の水鳥

すぎなみの生き物アンケート調査の結果、カモ類、サギ類など 28 種類の水鳥が確認されました(左上のグラフ参照)。分布をみてみると、やはり区内の池や河川がある地域で確認されているのが分かります。中でも善福寺川沿いや善福寺公園では、たくさんの種類が確認されています。

調査が開始された第3回に比べ第4回は確認メッシュ数が減少しましたが、今回の調査では第3回と同じぐらいまで回復しています。



注: 第1回調査、第2回調査では調査されなかった



※メッシュ内の数字は水鳥の確認種類数

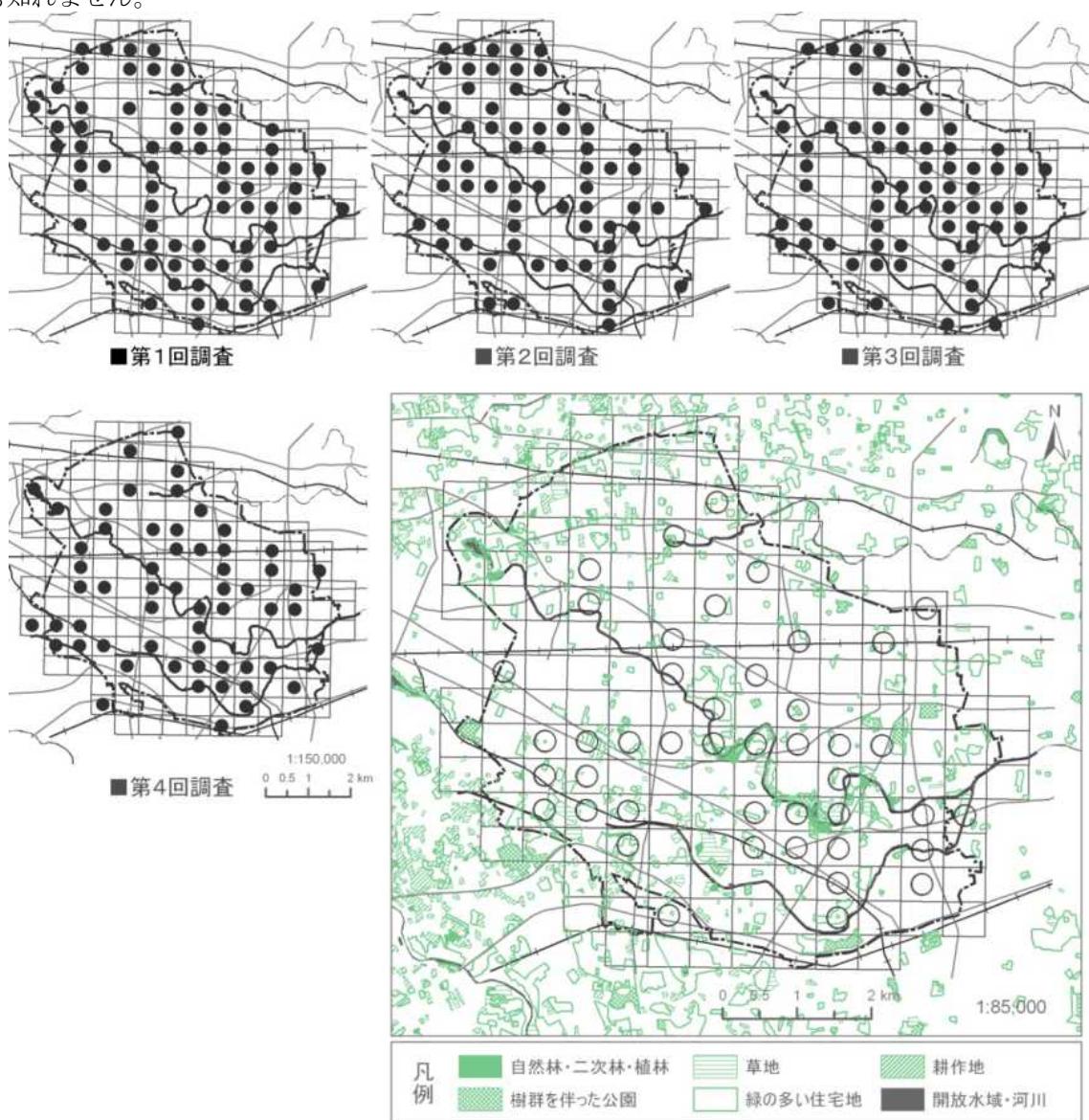
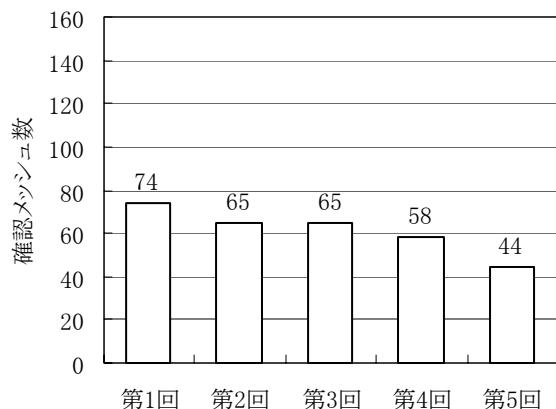
■第5回調査

ツバメの巣

ツバメは杉並区に渡来する代表的な夏鳥で、家の軒先などに巣をつくる身近な鳥です。ツバメ類のなかでは杉並区でもっともよく見られる種類ですが、このほかにも少数ですがコシアカツバメ(3例)や、ツバメ類によく似たアマツバメ類ではヒメアマツバメ(2例)の巣も確認されています。

松の木中学の調査で、杉並区のほぼ中央部のツバメの巣は年々減少していることが分かっていますが、今回のすぎなみの生き物アンケート調査でも全体としては徐々に減少している傾向がみられ、最も多く見られた第1回の調査に比べると確認メッシュ数は2/3以下に減少しています。

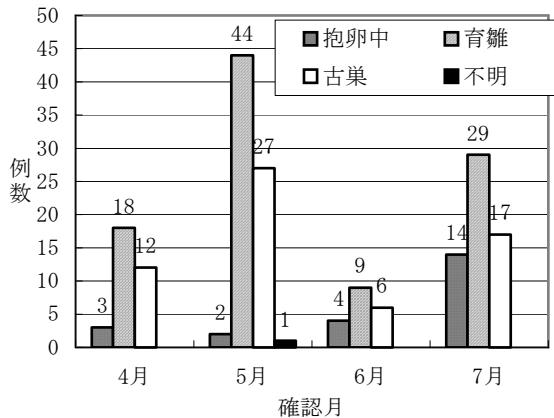
今回確認された場所を見ると、市街地でもよく確認されていて、特にみどりの多いところと重なる傾向はみられませんでした。もともと人の暮らしと共存している種類なので特に広い樹林が必要というわけではありませんが、みどりが少なくなり過ぎると餌となる昆虫類の個体数や種類が減って、すみづらくなるのかも知れません。



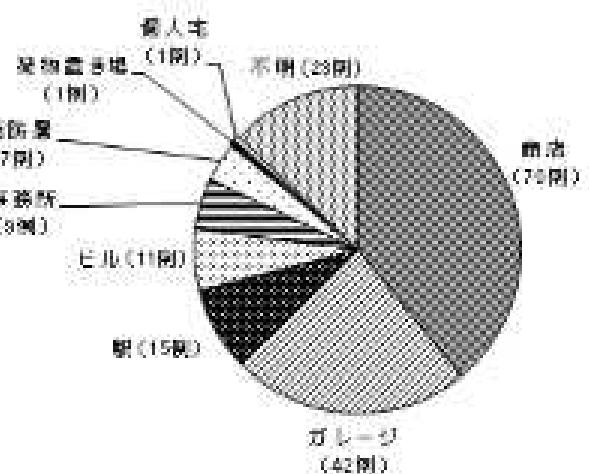
このほかすぎなみの生き物アンケート調査では、分布だけでなく確認されたツバメの巣の詳しい状況も報告されています。こうして寄せられた情報は 179 例にのぼりますが、これらをもとに杉並区内のツバメの巣の様子をまとめました。

ツバメの巣は主に 4 月から 7 月のあいだに確認され、いずれの月にも雛を育てている時期(育雛期)での確認が最も多いた結果となりました。育雛の確認が多かったのは、じっと卵を抱いている時期(抱卵期)や古巣などよりも目につきやすいことが理由と考えられます。特に 4 月、6 月に比べて 5 月、7 月に確認が多いことが分かります。これは、ツバメのつがいでは春から夏にかけて、2 回繁殖することがよくあるためと考えられます。2 回も子育てするためには餌が豊富でなくてはいけないことから、分布が狭くなつたとはいえる、杉並区はツバメが生息するのに良好な環境が多く残されているということが考えられます。

また、ツバメが巣をかけた場所に注目すると、商店が最も多く全体の約 1/3 です。ついで、ガレージ、駅、ビルが多く、人の出入りがあるにぎやかなところを好んでいることがわかります。



観察されたツバメの巣の月ごとの様子



ツバメが巣を作った場所

餌台にくる鳥類と好む餌の種類

餌台にくる鳥類に関するすぎなみの生き物アンケートで寄せられた回答の中から、どんな種類がどんな餌を食べているか、よく見られた鳥類の順番に餌の種類をまとめました。

もっとも多く見られたのがシジュウカラで、ヒヨドリ、メジロ、スズメ、ムクドリといった身近な類鳥の確認が多いようです。餌の種類はいろいろですが、ミカンなどの柑橘類やリンゴやカキといった果物、木の実、ご飯やお米などを食べていることが確認されました。そのなかでもシジュウカラ、ヒヨドリ、メジロなどは果実をよく好むのに、スズメは米、雑穀を好むなど種類による違いがみられました。その他、パンくずは多くの種類に好まれるようです。

餌の種類と鳥の種別採餌例

鳥の種類	シ ジ ュ ウ カ ラ	ヒ ヨ ド リ	メ ジ ロ	ス ズ メ	ム ク ド リ	キ ジ バ ト	オ ナ ガ	ツ グ ミ	ド バ ト	ハ シ ブ ト ガ ラ ス	ウ グ イ ス	カ ワ ラ ヒ ワ	モ ズ	ジ ヨ ウ ビ タ キ	セ グ ロ セ キ レ イ	ハ ク セ キ レ イ	カ ル ガ モ	ア オ ジ
柑橘類(ミカン・キンカン・ユズ)	○	◎	◎	△	+	+	+	+			+	+	+					
リンゴ	△	○	○	+	△	+	+	+	+		+	+						
カキノキ	+	+	△	△	△		+		+	+								
その他の果物(ヤイ・パナ・ナシ・洋ナシ・イチゴ・モモ)	+	+	△	+		+												
木の実(マツノミ・クルミ)	+																	
ピーナッツ	+	+	+	+		+												
ヒマワリ	○	+	+	+	+	+		+	+									
野菜の種	+																	
小鳥の餌(市販)	+			+		+	+			+								
米穀・米飯	+	○	+	◎	+	○	+	+	+	+	+		+					
雑穀(ヒエ・アリ・トウモロコシ・コーリヤン)	+		+	◎	+	○				+								
花の蜜(ツバキ)			+															
菜物(ブロッコリー・芽キャベツ)		+																
肉類(肉・脂肪等)	○	+	+	+	+		+			△		+	+					
ジュース	+	+	+		+			+			+		+		+			
お菓子	+	+				+					+							
パンくず	△	◎	△	◎	△	○	△	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
キャットフード		+																
その他食品(干しうどん・マヨネーズ)		+			+					+								

+: 1~5例の報告があったもの
△: 6~10例の報告があったもの

○: 11~25例の報告があったもの
◎: 26~50例の報告があったもの

鳥類の食性

公園の草本や庭木、ベランダの鉢植えなどで餌をついぱむ鳥類の観察例から、どんな種類がどんなものを食べているかをまとめました。餌台にくる鳥類と同様に身近な鳥の確認が多く、やはり餌台での好みと同様にカキなどの大きな果実が好まれていました。また、マンリョウやピラカンサなど小さな実もよく食べられているのがわかります。その他、記録は少ないですが木につくアブラムシなどの小さな虫や鳥の死骸、ザリガニといった動物性のものを食べている種類も確認されました。

また、すぎなみの生き物アンケート調査以外からはツバメやカイツブリがシオカラトンボを食べたという情報が寄せられています。今回の自然環境調査ではシオカラトンボが増えているのが明らかになっていきますので、鳥たちが餌として利用する様になったのかもしれません。

植物の種類と鳥の種別採餌例

鳥の種類	ヒヨドリ	メジロ	スズメ	ムクドリ	シジュウカラ	ハシブトガラス	オナガ	ツグミ	キジバト	ドバト	ジョウビタキ	ウグイス	コガラ	アオジ	カワラヒワ	ハクセキレイ	エナガ	オナガカモ	カルガモ
花木																			
街路樹	マンリョウ (実など)	○	△	+	△	+	+	+	+	+	+	+			+				
庭木	ピラカンサ	○	+	+	△	+	+	+	+	+	+	+	+	+					
	クチナシ	△	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		+			
	ムラサキシキブ	△	+	+	+	+	+	+	+	+	+								
	ツバキ (蜜・芽など)	+	△	+	+	+	+	+	+	+	+								
	センリョウ	△	+									+							
	ムクノキ (実など)	+										+						+	
	サザンカ (蜜など)	+	+																
	エノキ							+	+	+				+					
	ウメモドキ	+	+	+				+			+								
	ケヤキ (実)							+	+			+	+						
	アメリカハナミズキ		+	+										+					
	センダン	+										+							
	ロウバイ	+																	
	アキニレ (実など)															+			
	イヌツゲ		+														+		
	ウメ		+	+															
	トウネズミモチ	+				+													
	ヒメリング (実など)	+										+							
	ボケ		+								+								
	モッコク		+								+								
	ヤブツバキ	+	+																
	イイギリ		+																
	エンジュ		+																
	キリ					+													
	サクラ類							+											
	セイヨウヒイラギ		+																
	ヤツデ (実)	+																	
	ユズリハ	+																	
果木	カキノキ	◎	○	○	○	○	○	△	+	+	+	+	+	+	+			+	
	ミカン (実など)	△	○	+	△	△	+	+	+	+	+	+	+	+					
	キンカン	+				+													
	ブドウ							+						+	+				
	リンゴ	+				+													
	キウイ	+																	
	ユズ		+																
野菜・穀	ブロッコリー (葉など)	+				+													
	芽キャベツ (葉など)	+				+													
	イネ					+													
	カリフラワー (葉)							+											
	シソ (実)					+													
観葉草本	オモト (葉など)	+												+					
植物	キク科の植物	+											+						
	クサタチバナ							+											
	シンビジウム (蜜)	+																	
	ゼラニウム													+					
	タマサンゴ	+																	
	ホワイトホリ	+																	
草本植物	スズメノカタビラ	+	+	△	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	エノコログサ	+		△									+	+					
	ヘクソカズラ	+		+															
	シロザ	+	+																
	ヨウシュヤマゴボウ	+																	
(動物)	虫類 (アシ・ロウバイ・カキノキ・モ・シの虫)	+				+								+					
	小動物 (ドバト・ザリガニなど)							+										+	

+: 1~5例の報告があったもの
△: 6~10例の報告があったもの

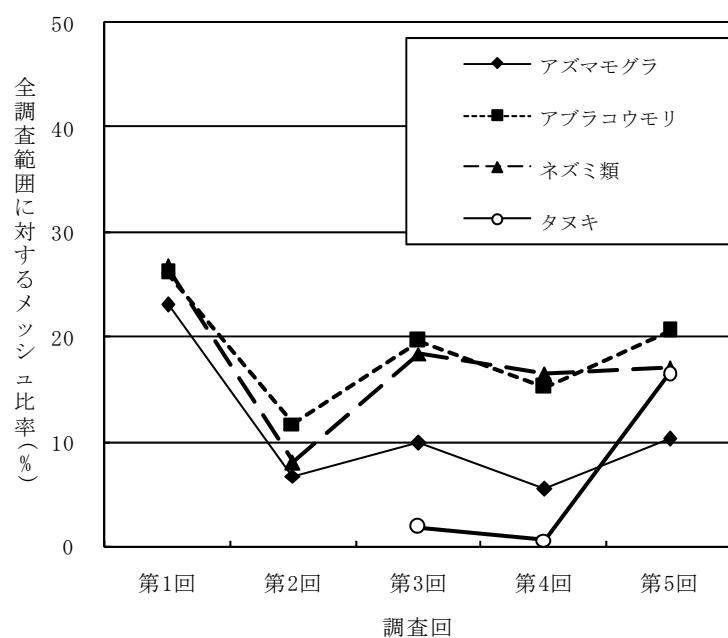
○: 11~25例の報告があったもの
◎: 26~50例の報告があったもの

(4) ほ乳類

今回のすぎなみの生き物アンケート調査や自然環境調査の結果、ほ乳類ではアズマモグラ、アブラコウモリ、ネズミ類、タヌキなどが確認されました。このうち、もっと多くのメッシュで確認されたアブラコウモリは過去の調査と比較してあまり変化はありませんでしたが、かつてはアブラコウモリと同様に杉並区で広く見られたアズマモグラは、前回と同じぐらいで第1回に比べると著しく確認メッシュ数が減少しています。また、タヌキは第3回調査に確認されましたが、今回は急激に分布を拡大している状況が明らかになりました。

環境省や東京都のレッドデータブックに掲載されている種類の確認はありませんが、杉並区の環境の指標となる種類(杉並区の環境の状態を示す種類)であるアズマモグラとアブラコウモリの2種類が注目種として選定されています。

ほ乳類が確認されたメッシュ数のうつりかわり



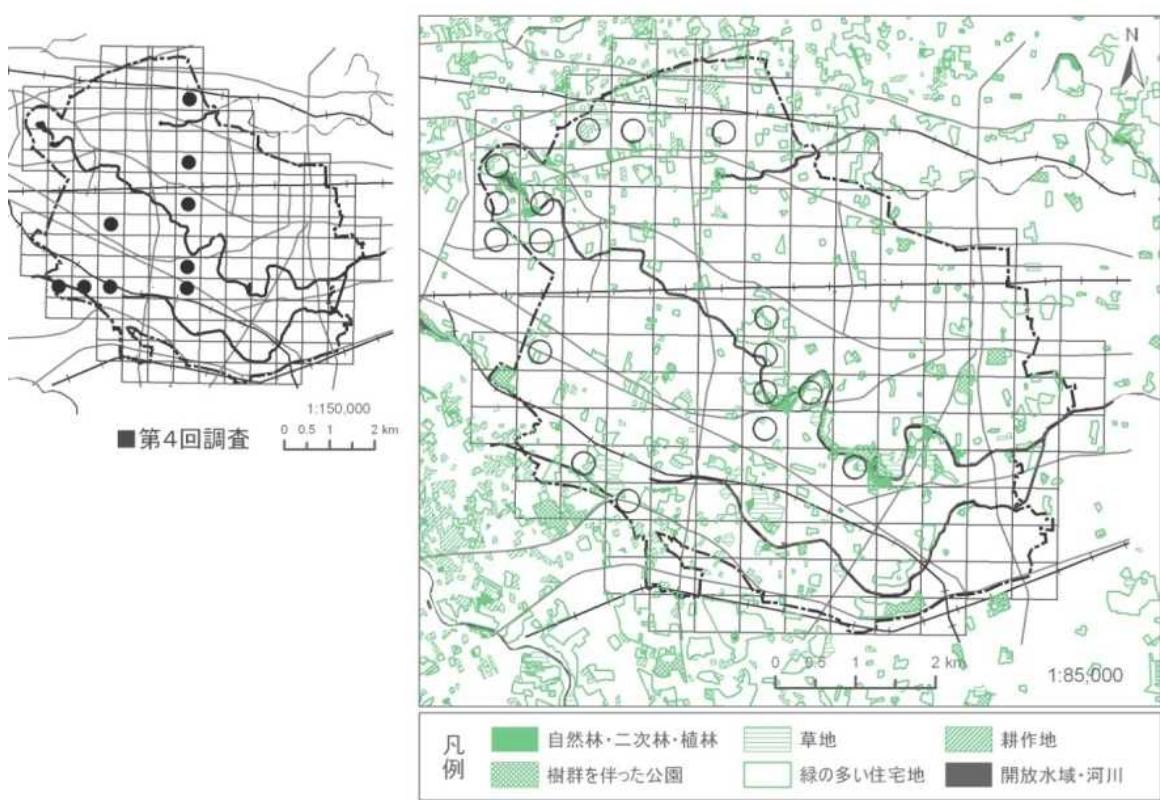
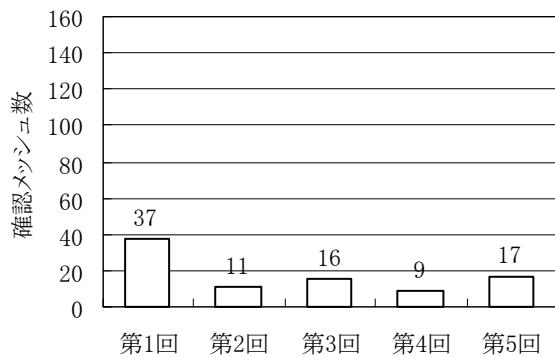
■主なほ乳類の生息状況

すぎなみの生き物アンケート調査と自然環境調査の結果から、杉並区を代表するほ乳類としてアズマモグラの区内での生息状況を紹介します。

アズマモグラ

地中の昆虫やミミズなどを餌にしているため、有機物の多い土壌が広い面積なければ生活することができません。このため開発の影響をうけやすく、住宅や道路などで分断されて生息地が孤立している状況にあります。今後も分布が縮小していくのではないかと心配されています。

第1回調査から全体として分布が減少する傾向にあります。今回確認された場所は公園や緑地などみどりの多い場所に多く、その他、耕作地がある場所でも確認されました。

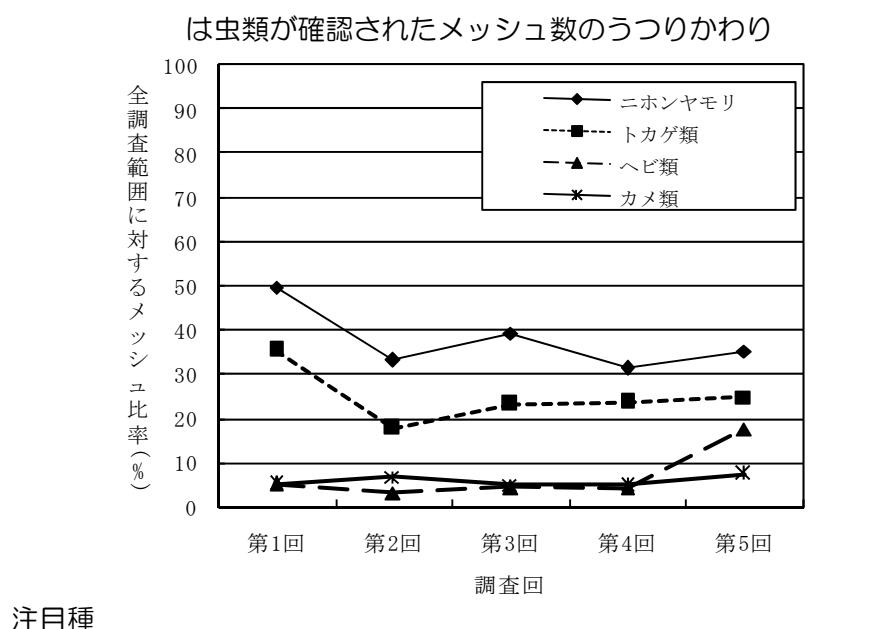


(5) は虫類

今回のすぎなみの生き物アンケート調査や自然環境調査の結果、は虫類ではニホンヤモリ、トカゲ類が2種類(ニホントカゲ、ニホンカナヘビ)、ヘビ類が5種類(シマヘビ・アオダイショウ・ヤマカガシ・ヒバカリ・ジムグリ)、カメ類が3種類(クサガメ・ニホンイシガメ・ニホンスッポン)が確認されました。また、その他に外来のカメ類が多く確認されました。

ニホンヤモリは第1回の調査に比べて減少していますが、確認されたは虫類の中ではもっと多くのメッシュで確認されています。また、トカゲ類は減少傾向にありました、今回確認されたメッシュ数は少し回復しています。ヘビ類はずっと少ない傾向にありましたが今回の調査では増加し、これまでの中ではもっとも確認メッシュ数が多くなりました。カメ類は外来種の確認が増えたため種類は増えましたが、水辺に生活場所が限定されているため、メッシュ数はそれほど変化がありませんでした。

貴重な種類(東京都のレッドデータブックに入っている種類など)や、環境指標となる種類(杉並区の環境の状態を示す種類)を注目種といいますが、今回の調査では6科11種類の注目種が確認されました。



注目種

目	科*1	和名	貴重性		指標性 *2
			都*1		
カメ	イシガメ	クサガメ	C		
		ニホンイシガメ	A		
	スッポン	ニホンスッポン	C		
有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ	C	a, b	
	トカゲ	ニホントカゲ	C	a(トカゲ類)	
	カナヘビ	ニホンカナヘビ		a(トカゲ類)	
	ナミヘビ	ヒバカリ	A		
		アオダイショウ	B	b	
		ジムグリ	A		
		シマヘビ	A		
		ヤマカガシ	B		
2目6科11種			10種	4種	

*1: 東京都レッドデータ=区部ランク

A: 絶滅の危機に瀕している種。 B: 絶滅の危機が増大している種。

C: 生息環境の変化によりAランクやBランクへの移行が危惧される種類

*2: 指標する項目(指標する環境については後に詳解)

a: 自然環境の質

b: 環境変化

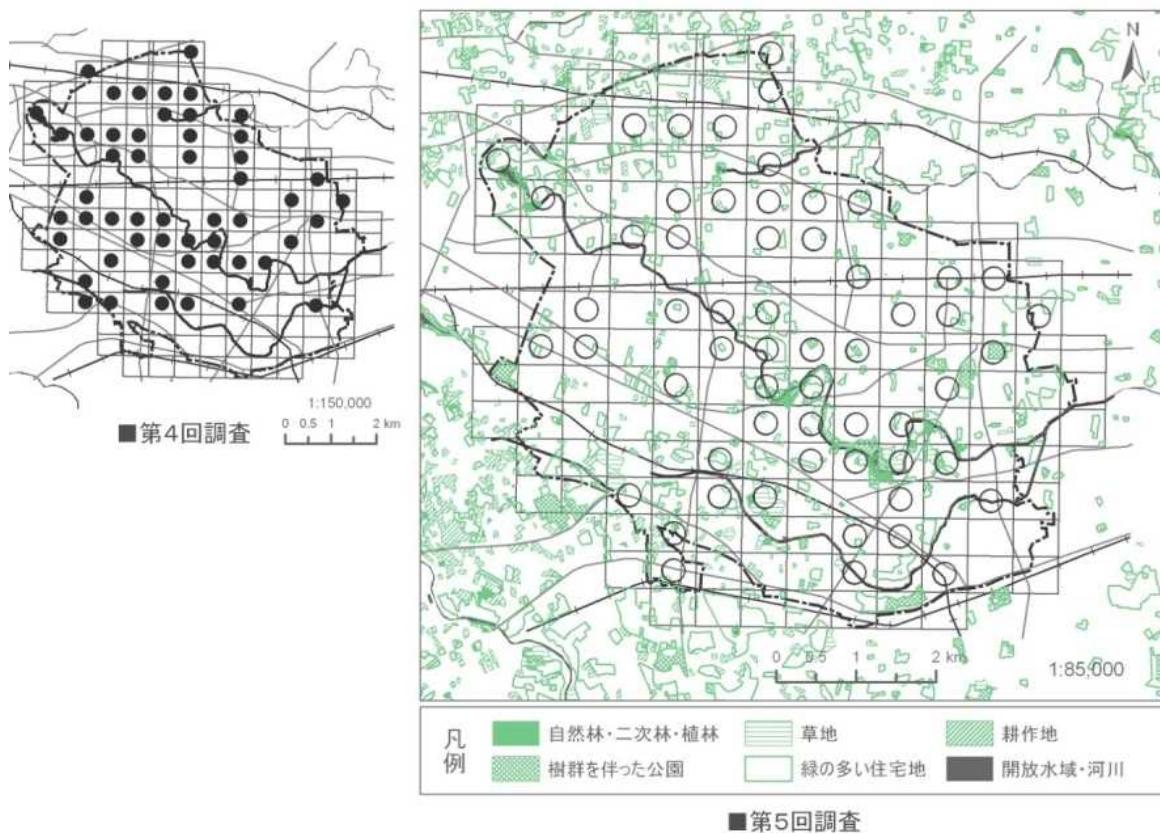
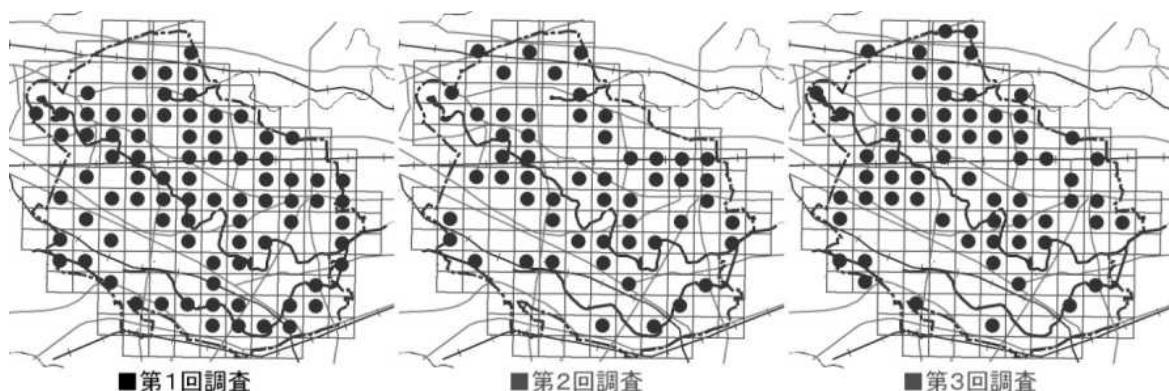
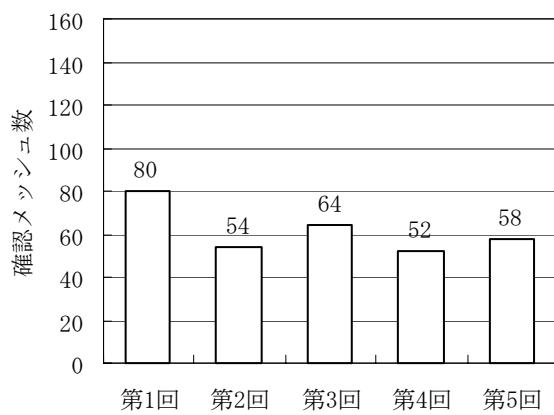
■主なは虫類の生息状況

すぎなみの生き物アンケート調査と自然環境調査の結果から、杉並区を代表するは虫類としてニホンヤモリの区内での生息状況を紹介します。

ニホンヤモリ

住宅やその周りにすむニホントカゲぐらいの大きさのは虫類で、屋外灯などに集まった小さな昆虫を食べています。

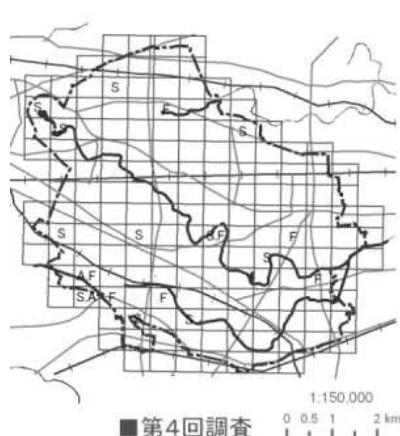
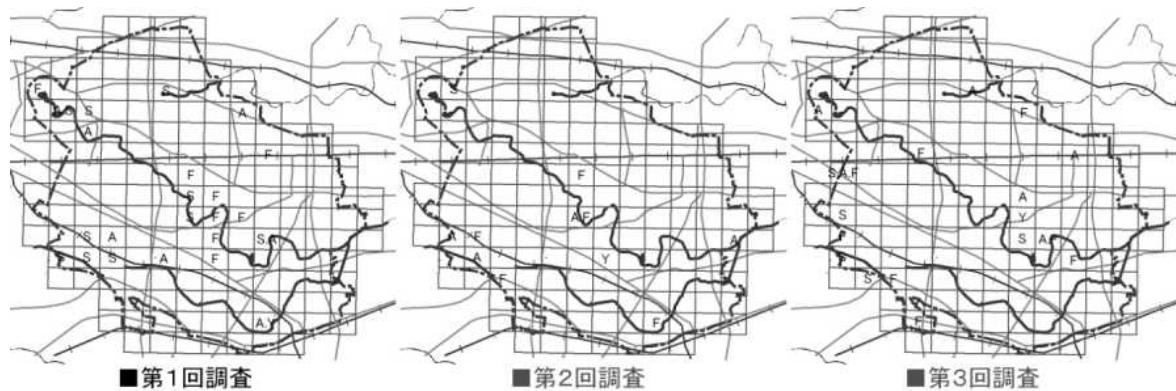
第1回調査から比べるとやや減少していますが、第2回調査以降は安定しています。今回確認された場所は、みどりがやや多いところもありますが、市街化された場所と重なるところもあり、人間が造り出した環境にうまく適応しながら生息しているのがわかります。



ヘビ類

今回の調査ではシマヘビ・アオダイショウ・ヤマカガシ・ヒバカリ・ジムグリの5種類が確認されました。ヘビ類は様々な種類の脊椎動物やその他の小動物を捕食するため、生き物の多い緑地を好みますが、アオダイショウのように高いところに登るのが得意な種類は、街中の人家でも見られることがあります。

もともと全体に記録が少ないので、これまでの調査の中ではもっとも確認された場所が多くなりました。今回も前回と同様に善福寺川、神田川沿いの緑地を中心に分布していますが、今回は妙正寺川沿いでは確認されませんでした。種類に注目すると、アオダイショウがもっと多く確認されましたが、他の種類は区内の中央の善福寺川沿いの緑地に集中する傾向が見られました。



S:シマヘビ

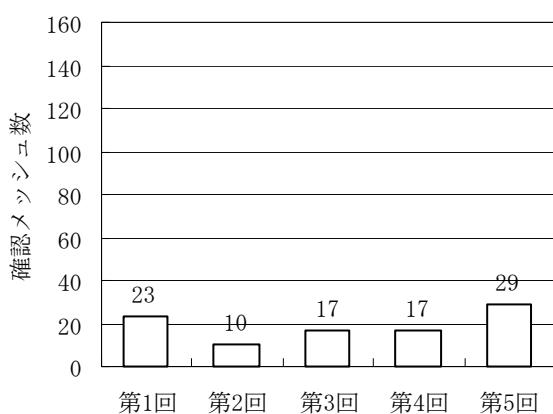
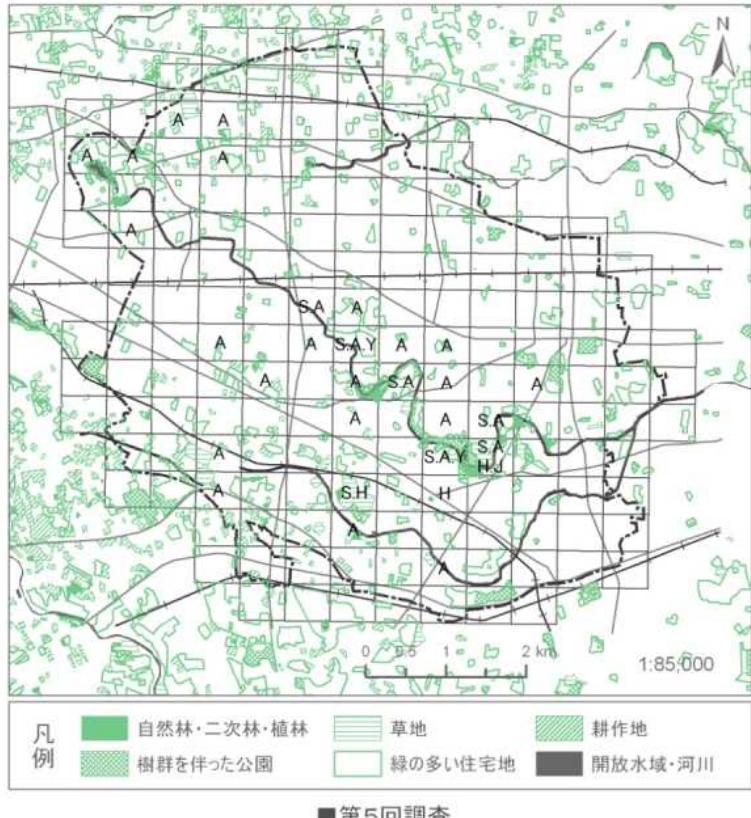
A:アオダイショウ

Y:ヤマカガシ

H:ヒバカリ

J:ジムグリ

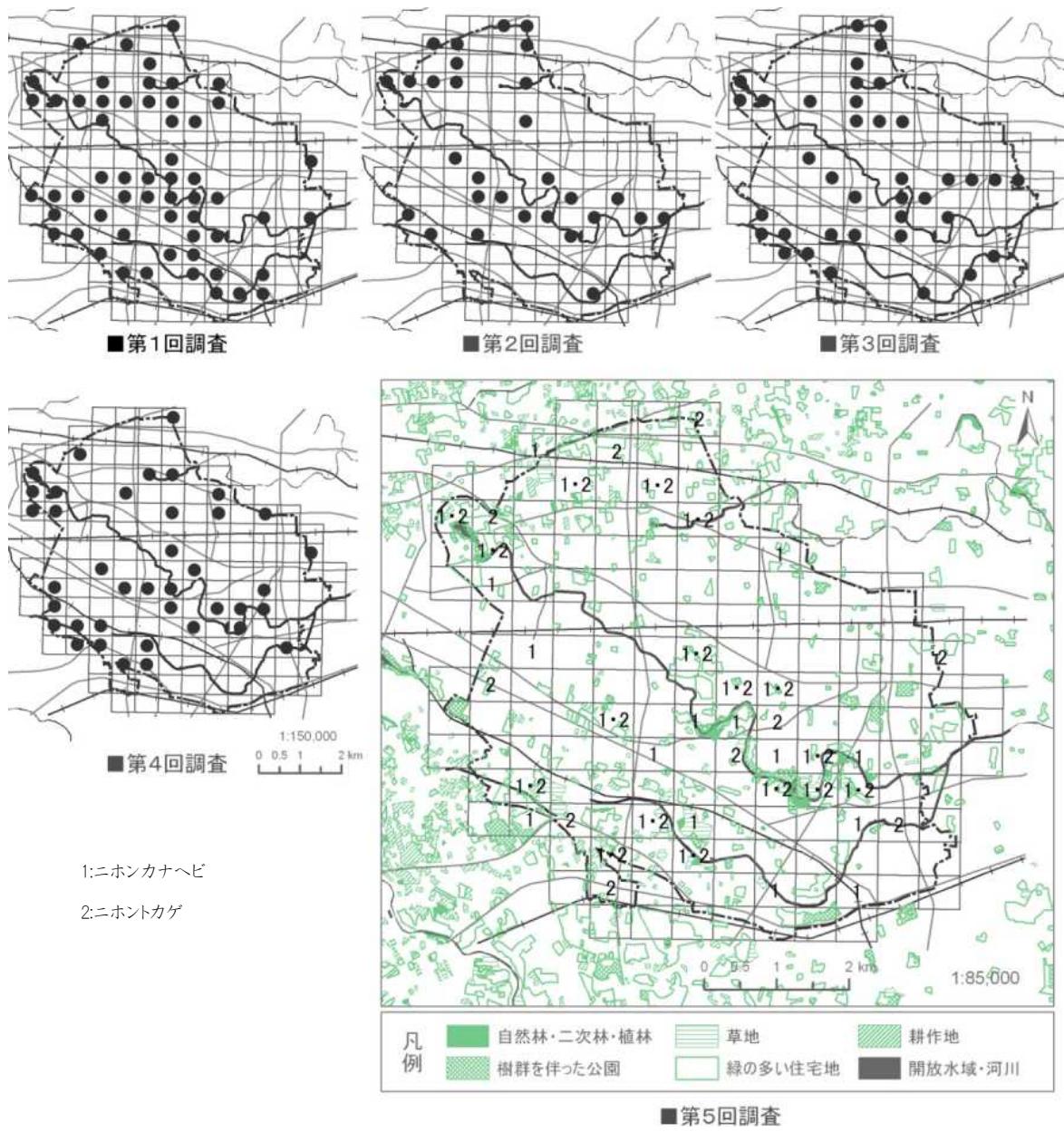
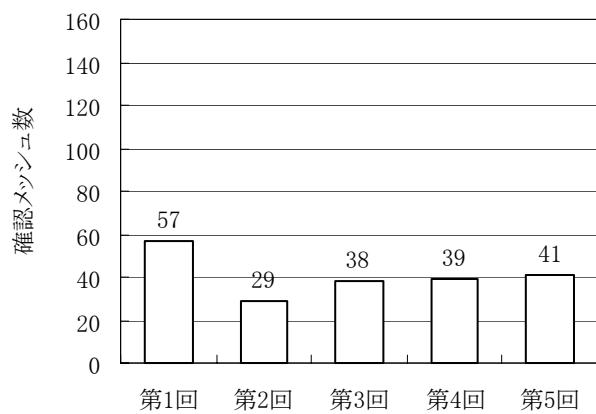
F:不明種



トカゲ類(ニホントカゲ・ニホンカナヘビ)

今回の調査ではトカゲ類としてニホントカゲ・ニホンカナヘビの2種類が確認されました。これらのトカゲ類は草地や樹林の縁のように明るく開けた場所に住み、昆虫やクモ類などの小さな動物を捕食しています。両種は性質も姿かたちもよく似ていますが、ニホントカゲは石垣やコンクリートなど草がないところも混じる環境を好み、ニホンカナヘビは藪や込み入った草むらも混じる環境を好むなど、少しずつ住み分けているようです。

もともとニホンヤモリに次いで記録が多い種類で、第1回調査から比べるとやや減少していますが、第3回調査以降は安定しています。

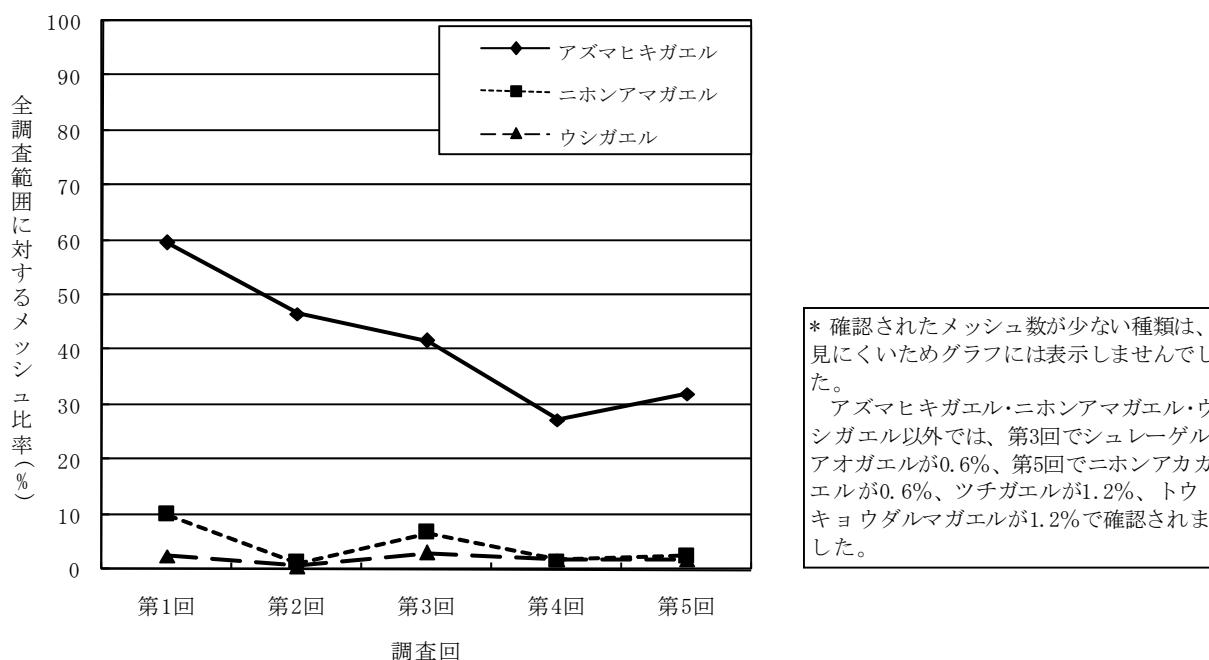


(6) 両生類

今回のすぎなみの生き物アンケート調査や自然環境調査の結果、両生類ではアズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ウシガエル、ニホンアカガエル、ツチガエル、トウキョウダルマガエルの6種類が確認されました。このうち、アズマヒキガエルはもっとも広い範囲で確認され、第4回の調査よりも少し増加しましたが、第1回の調査に比べると減少しています。それ以外の種類は過去の調査と同様に、アズマヒキガエルに比べると確認された場所は少ないものでした。

貴重な種類(東京都のレッドデータブックに入っている種類など)や環境指標となる種類(杉並区の環境の状態を示す種類)を注目種といいますが、今回の調査では2科4種類の注目種が確認されました。

両生類が確認されたメッシュ数のうつりかわり



注目種

目	科	和名	貴重性	指標性 *2
			都*1	
無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	C	a
		ニホンアカガエル	B	
		ツチガエル	B	
		トウキョウダルマガエル	B	
1目2科4種類			4種	1種

*1 東京都レッドデータ=区部におけるランク

A:絶滅の危機に瀕している種。 B:絶滅の危機が増大している種。

C:生息環境の変化によりAランクやBランクへの移行が危惧される種類

*2 指標する項目(指標する環境については後に詳解)

a:自然環境の質

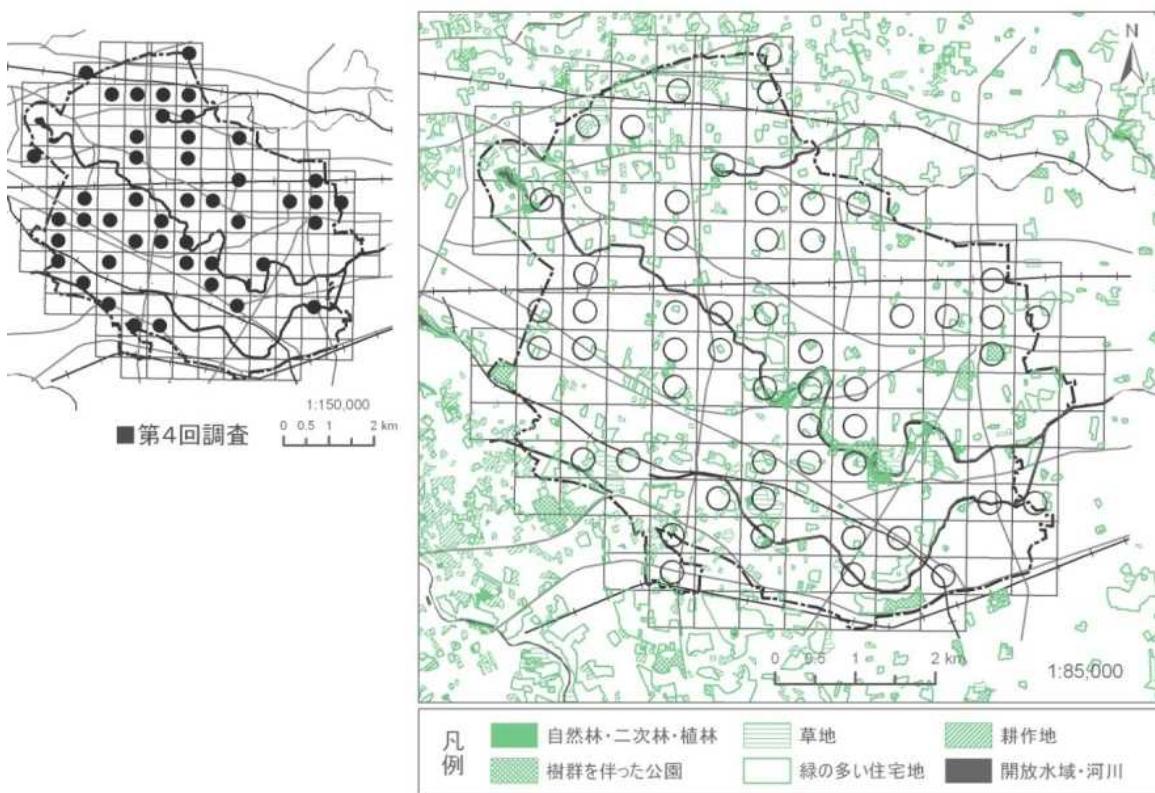
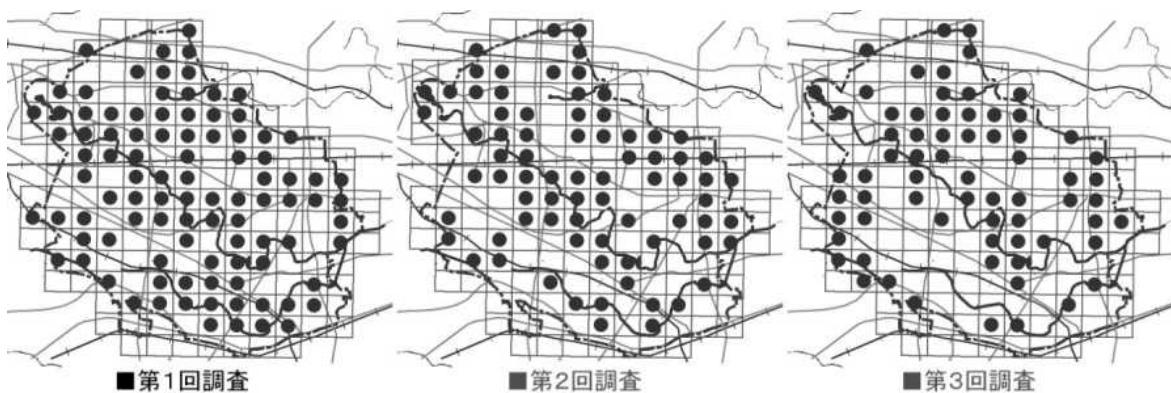
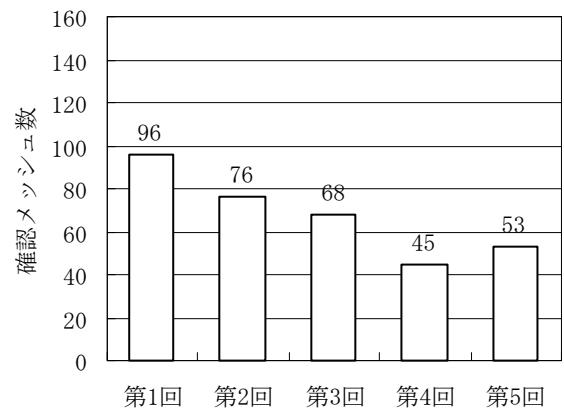
■主な両生・は虫類の生育状況と環境

すぎなみの生き物アンケート調査と自然環境調査の結果から、杉並区を代表する両生類としてアズマヒキガエルの区内での生息状況を紹介します。

アズマヒキガエル

区内に広く分布し「ガマ」とも呼ばれており、庭の池などでも産卵し、古くからある庭木の多い住宅地などでも生息が可能です。

第4回の調査よりも少し増加しましたが、第1回の調査に比べると減少しています。これは、繁殖のための水辺や昆虫やミミズなどの餌の減少、移動するときの交通事故などが原因と考えられます。今回確認された場所には市街地もあり、特にみどりの多いところと重なる傾向はみられませんでした。アズマヒキガエルにとって杉並区はすみづらくなっているのかもしれません、公園などに産卵用の池をつくることで生息環境を改善することもできると考えられます。



4 すぎなみの生き物たち（まとめ）

＜杉並区の環境の変化＞

杉並区は、少なくとも明治時代のころは「武蔵野の雑木林」のある農村であり、生き物のにぎわいのある豊かな里の自然が広がっていました。それが徐々に市街化が進み、現在では、ほとんどが市街地となり大きな緑地でも 10ha 前後で、善福寺川や神田川沿いに断片的に緑地が残っているという状態にまで変わってしまいました。残された緑地も人為の影響がさらに大きく加わり、そのためより単純な構成になりつつあります。また、地球の温暖化やヒートアイランド現象により気温が上昇傾向を示し、さらに地下水位の低下や湿度の低下などにより、土地の乾燥化が進みつつあることも考えられます。このような環境条件の変化に伴って、植物や動物などの生き物たちの状況も様々に変化しています。

＜生き物たちの変化＞

植物では、絶滅が危惧される種類や区内での生育が注目される種類の減少や、かつては普通にみられた種の分布の減少などが確認されています。これは生育環境が単調になりつつあることを示唆しています。

動物では、クモ類や鳥類の生息個体数の減少を示すデータが確認されています。これは、区内全体で生息できる生き物の量が減少していることを示唆しています。今後環境の単調化が進めば、さらに確認される種類数の減少も考えられます。このことは、コガタコガネグモ、スズメ、ウグイス、アズマモグラなど様々な種類でも分布や個体数の減少が確認されていることからもうかがえます。

しかし、一方ではショウジョウトンボのように、個体数が増加していると考えられる種類もあり、環境保全活動による水辺環境の増大や多様化などの効果が現れている一面もみられます。

＜すぎなみの自然環境の特徴＞

このような状況の中で、植物の野生種が 584 種類、クモ類が 138 種類、昆虫類が 1106 種類、鳥類が 50 種類、ほ乳類 6 種類、両生類 6 種類、は虫類 11 種類など約 1900 種類の生き物が確認されています。これらの生き物は、現在の杉並区の環境の多様性に支えられています。その骨格は、善福寺川と神田川及びそれに付随する池及び川沿いに点在する樹林地や草地、農地などの緑地です。また、善福寺公園や善福寺川緑地及び和田堀公園などの樹林地や様々な緑地がまとまってみられるエリアも主要な役割を果たしています。さらに、区内全域で屋敷林や社寺林などの小規模な樹林地、個人の庭の身近なみどりなど小規模なみどりが点在して、それらが集まって杉並の自然を構成しています。(参考として杉並区の自然環境をはかる“ものさし”となる「指標生物」を次頁に示します。)

＜多様な生き物を育む取り組みに向けて＞

今後生き物たちのにぎわいを少しでも取り戻すためには様々な取り組みが考えられます。まず取り組むべきこととして短・中期的には、現在残されている緑地の自然の質を高めること、具体的には生き物の生息地として多様な環境で構成されるエリアを設けること、必要な管理や利用の制限を継続的に行っていくことなどです。さらに長期的には、骨格となる緑地を極力連続させ、周辺の自然性が高い場所とつなげることが必要となります。また、これらの生き物のにぎわいを取り戻す試みの効果を見極めるためモニタリング調査を行うことも必要です。これまで継続してきた調査がそれに当たりますが、今後はそれをさらに強化する必要があり、生態系、種、遺伝子の多様性を考慮することも大事なことと言えます。

■自然環境調査とすぎなみの生き物アンケート調査により確認された生物の種類数

環境保全活動		種類数	調査区分
植物		584	
動物	クモ類	138	自然環境調査
	昆虫類	1106	
	鳥類	50	
	ほ乳類 ^{※1}	6	すぎなみの生き物 アンケート調査
	両生類	6	
	は虫類 ^{※2}	11	

※1 ネズミ類はクマネズミ、ドブネズミ、ハツカネズミの3種類としました。また、外来種は除きました。

※2 カメ類の外来種はここでは除きました。

■指標生物

特徴的な環境を表す以外に、なるべく区民にわかりやすく、記録が得られやすい（稀少生物でない）生き物を取り上げています。

例えば、ニイニイゼミやヒグラシが少なくなるということは、樹林環境が全体的に減少している、樹林の規模が小さくなっている、樹林内が単調な構成になっていることなどを示します。このように、生息している場所や生息数を継続的に記録し変化をみるとことによって、区内の自然環境の変化をとらえることができます。次ページに杉並区の指標生物を表にしました。

指標環境		分類群		高等植物	クモ類	昆蟲類		鳥類	ほ乳類	両生類	は虫類
自然環境の質 (環境の豊かさを指標する種)	樹林	屋敷林 社寺林	フタリシス'カ ハエト'クツウ ホウチャクソウ	ヤブ'コウシ ノキンノブ'	オニグ'モ	ニニイセミ ヒグラシ	カネタタキ サトキマダ'ラヒカケ'	コグ'ラ ウグ'イス	-	-	-
		雑木林	ガ'マズ'ミ ヌスピ'トハギ'	コガ'ネグ'モ シヨロウク'モ			クリガ'タムシ類 ゴマダ'ラチョウ		-	-	-
		豊かな林床	-	キンラン キ'ンラン シュンラン	地表性クモ類 (コモリグ'モ類・ ウラシマグ'モ類)	アシナガ'アリ ヒメジ'ヤノメ ミツカト'コオロギ' 徘徊性コウチュウ	-	-	アズ'マヒキガ'エル	-	
	林縁	キイチゴ'類 (モミ'イチゴ'・ニカ'イチゴ'等) サルトリイハラ ミツハ'アケビ' クヌ'			コガ'ネグ'モ	カマキリ類 ウラギンシ'ミ		モズ'	-	-	
		草地	ススキ チガ'ヤ ヤブ'カシソウ'・ ノカシソウ' ワレモコウ カントウタンボ'ボ'	ナガ'コガ'ネグ'モ ササグ'モ		ヘニシシ'ミ ツマキチヨウ			-	-	トカケ'類
	水辺	水生植物の 生える水辺	ガ'マ類 イ(イグサ)* ヨシ セリ シ'ソハ' オキ*		アシナガグ'モ	キイトンボ' ハグ'ロトンボ'	カルガ'モ	-	-	-	
		水生植物の 生えないよど んだ水辺	-	-		コシアキトンボ' クロスジ'キンヤンマ	-	-	-	-	
	緑の多い 住宅地		-	シヨロウク'モ	コ'マダ'ラチョウ カネタタキ エンマコオロギ'	ウグ'イス	アブ'ラコウモリ	アズ'マヒキガ'エル	ニホンヤモリ		
	自然環境の豊かさ (昆蟲類相の豊富さ)		-	シヨロウク'モ	カマキリ類 アシナガハ'チ類	-	-	-	-	-	
	大気汚染		スキ* (大気汚染に弱い)	-	ニニイセミ ヒグラシ	-	-	-	-	-	
環境変化	水質汚染		オランダ'カラシ外	-	アメンボ'	-	-	-	-	-	
	都市化	セイヨウク'ソウ'ホ'外 ハルシ'オ'ン'外 ヒメジ'オ'ン'外 チチコ'サモド'キ'外 ウラシ'ロチ'コ'グ'外 ナガ'ミヒ'カ'シ'外 オオフク'ク'外 ワルナスヒ'外			-	チドリ'カ' ツマグ'ロオヨコハ'イ	ツバ'メ	アズ'マモグ'ラ	-	ニホンヤモリ アオダ'イショウ	
		開花・紅葉・落葉の時期 東方系植物の野化 (シユロ'ヤツテ'・アオキ)			-	クマゼ'ミ アオト'ウカ'オ クロコ'マヨウ ウラキ'ンシ'ミ セミ類の発生時期	渡り鳥の 去来の時期	-	両生類の 産卵時期	-	
	温暖化		-	-	シヨウジ'ヨウトンボ'	-	-	-	-	-	
	環境回復		-	-							

注釈

斜字: 生息生育することが「環境変化」の進行を指標する動植物

外: 外来種

※: 杉並区の地名の由来となっている種類

すぎなみの生き物たち 4

登録印刷物番号

19-0146

－すぎなみの生き物アンケート調査結果のまとめ－

平成 19 年度版

平成 20 年 3 月発行

編集・発行

杉並区環境清掃部環境課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目 15 番 1 号

電話 03-3312-2111 (代)